

# 公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える

宇都宮大学

## 第2日目

2020年12月6日(日)9時から12時

司会 稲川 星

### ○稲川星

宇都宮大学国際学部4年の稲川星と言います。本日司会を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。田巻先生の研究室で夜間中学に関する卒業論文を書いています。論文の題目は「教員の視点から見る公立夜間中学の意義」です。

夜間中学に関心を持つようになって以来、これまで直接お会いしてきた公立夜間中学の先生方は、全員が公立夜間中学に対して情熱をもち必死にその存在と意義を伝えていました。日々の授業や庶務で多忙であるにも関わらず疲れを感じさず、力のこもった声で語る姿に聞いているこちら側も熱心に聞かなければという思いになりました。なかには生徒に中国人や中国残留孤児が多かったからと中国語を学んでペラペラにしゃべれるようになった元公立夜間中学教員もいました。1つの言語をマスターすることは容易ではありません。中国からの留学生と中国語で会話をする光景に驚きました。もし筆者が公立夜間中学の教員でもここまでできるのだろうか、いやなかなかまねできることではないと思います。尊敬の念を抱きました。これほどにこの先生たちを突き動かす何かが公立夜間中学にあるのだ。それはいったい何なのか。一気に公立夜間中学の世界に惹かれていきました。

本日は、田巻先生のご発表の後、「夜間中学が目指す学びとは?」について、4名の関係者からご報告を頂きます。そして、その後は、宇都宮大学国際学部の学生と大学院地域創生科学研究科の大学院生が発表します。私も勉強させていただきます。では、田巻先生よろしくお願いいたします。

### ○田巻松雄「大学が自主夜間中学を作ること」

「大学が自主夜間中学をつくるということ」 2020年12月6日

田巻 松雄

#### ○夜間中学が大事にする学び、その取り組み、大学が果たすべき役割(研究プラス)

東京出入国在留管理局

『ある外国人の日本での20年』 FRESC 7月 Foreign Residents Support Center

久里浜少年院

#### ○夜間中学元年 2020年度

ゼミ、学長選 : 地域に開かれた大学、

: 外国人生徒入試の全学導入→大学が果たすべき役割

#### ○夜間中学の必要性、重要性

S 全国夜間中学研究会 顔

T 10歳で来日し31歳で強制送還されたブラジル人の転落

#### ○学校の在り方 札幌市立大通高校:多様な学びは地域で支える

外国人特別定員枠

学力や実績を問わない、いつでも戻ってこれる学校、

最も社会に近い学校

#### ○文科省定時制通信制高校全国調査

不登校、様々な障がい、日本語、経済的困難、非行・犯罪歴

宮城県 令和元年 多様な学びの保障に関する全県的な取り組み

4校 不登校生徒の学び直しの場合 美田園通信制 全日制の問題点

#### ○公立夜間中学 ニーズについて 県立 単独 定時制高校に併設

徳島県 1,425名

栃木県 960通 10月か12月 あったらよいと思う 853通 88.9%

約3000名

#### ○大学の関わり 公立・自主夜間中学が大事にする学びを学ぶ

教育実践を志向する

来年の再会を期して

#### 「地域に開かれた大学を目指す」

おはようございます。昨日の4名の方の発表を聞きながら、今日どういう発表をしようかと考えていたとこなんですけど。結果的には今朝改めてメモを作りまして、今から30分ほどお話しさせて頂きたいと思います。

今回、この企画を準備しました大きな目的は、2つあります。公立夜間中学ならびに自主夜間中学が大事にしている学びとは何なのか、あるいは大事にしている学びをどういう風実践しようとしているかということについて幅広く学びたいという思いが、一番大きなテーマでした。それから、公立夜間中学、自主夜間中学という学びの場に関して、大学がどういったことを果たすべきなのか。これは、研究という面もさることながら、それに限定されない大学の関わり方があるんじゃないかという風な問題意識がありました。この2つを特に自分が学びたいということで、今回企画致しました。

それで今日の結論として、忘れてしまうといけないので最初に言っときたいんですけど、来年もこういう場を是非、宇都宮で作りたいたいと思っておりまして。また1年後、皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

今週の水曜日に、実は東京出入国在留管理局の方が来られまして、1時間ほど話をしました。今回のシンポのテーマにも関係するので、お話しさせて頂きたいんですけども。電話で入管もこれからいろんな取り組みをしていくので、色々意見交換できないかという話だったんですね。それで、自分も入管の関係者とはお話ししたいと思っていたもんですから、是



田巻松雄は大学関係者が夜間中学の重要性を理解すべきと主張した



是非という風に来て頂きました。

ただ昨年(2019年)の今頃に『ある外国人の日本での20年—外国人児童生徒から「不法滞在者」へ』という本を書いたときに、入管の外国人、特にオーバーステイの方に対する処遇に非常に問題があるということを書きましたので、批判した対象の組織の人と面と向かって一対一というのは、ちょっと緊張する所も正直いってあったんですね。ただ、飾ってもしようがないので、こういう本を書きましたと伝えるところから始まりました。

特に入管の何が問題かという、少年院送致とか刑務所服役とか、人間の自由を拘束するという処遇は裁判所の判断がある訳ですけど、入管の入管施設に対する外国人の収容というのは、入管独自の裁量で判断されるという現実があるわけです。それから収容期間に上限の定めがないので、原則、制度上無期限収容ができるという非常に大きな問題を孕んでいます。それから、少年院に入れる場合でも刑務所に入れる場合でも、何をしたのかっていう個々の状況を勘案して、どの少年院に入れるとかどのくらいの刑期にするかっていうことを決めるわけですけど、オーバーステイになってしまった人たちに対しては、一切個々の事情を配慮しないんですね。

日本での生活歴や家族との関係等考慮せず、一律に送還するというやり方を取ってる。そういう問題があるんだということを書いたわけなんです。どういった反応が来るかなと思いましたが、僕の話聞いた後に、「実は私も国の少年院で2年間働いていた経験がある」と。で、その少年院の2年間の勤務を振り返り、非常に「しんどかった」という話を始めたんですね。何がしんどいかというと、少年院は本当に貴重な学びの場になっている、学校で学ばなくて非行に走った青少年たちにとって様々な学びの場になっていて、ほんとに個々の人間に寄り添いながら、一生懸命に頑張るんだけど、中には少年院を出たその日に送還されるような子どもたちもいる。そういう子どもたちの処遇を見ると、入管の一人として、やるせない思いをしたことがあると言うお話をされたんですね。

そこらへんで少し意気投合しまして、色々話したんですが、実は7月にFRESC(外国人在留支援センター)と言う新しい試みを入管が始めました、在留外国人の受け入れ環境整備ということなんですけど、入管とか職安とか外務省とかいろんな政府の関係機関が8つひとつの場所に集まって、総合的に外国人の人たちの生活サポートを始めるんだという、非常に意欲的な取り組みだと思えるようなことを紹介されて、「是非FRESCに対する理解と協力をお願いしたい」と言われてまして、一緒に頑張っていきましょうという話になったんです。

何が言いたいのかというと、入管といっても色んな部署があって色んな人がいて、ほんとに外国人の人たちの生活サポートに真剣に考えている人もいるということです。そういう意味では外国人の人たちの生活支援に向けた新しい動きが国レベルでも始まっているんだということを感じました。自分も大学人として何か新しいっていかチャレンジングなことをやりたいということを再確認する場となりました。

今年度は、僕にとっては、夜間中学元年と言っていいような年度になりました。今回の企画の準備をしてくれたのは主に3年の8人の学生なんです。ゼミでは夜間中学を統一テーマにしまして、前期いろんなものを読んだり、討論をしてきました。それから、6人の大学院修士課程の学生、全員中国の留学生ですが、全員が夜間中学をテーマにして修論を書いています。切り口は様々ですけども。

実は、宇都宮大学では9月、10月に学長選考がありまして、私も立候補し、地域に開かれた大学を目指す1つの大きなビジョンとして、「栃木県内公立夜間中学設置に向けた積極的な協力と宇都宮大学に自主夜間を作る」というビジョンをあげました。

## 所信の一部

### 【地域と世界に開かれた学びの場を提供する】

#### 1 地域

様々な学びのニーズに応える学校づくりが推進されている。文科省がすべての都道府県に最低1校の設置を呼び掛けている公立夜間中学は、義務教育未修了者、形式卒業生、外国人生徒等の学びあるいは学び直しの場として、大きな役割を担っている。このような学びの場づくりに地方の国立大学も積極的に関与すべきである。栃木県及び県内自治体で検討されている公立夜間中学設置に対して積極的に協力するとともに、構内に自主夜間中学を設置する。

学長にも選ばれていたら、この場で「宇都宮大学に自主夜間中学をつくる」と声高に言おうと思っていたんですけど、残念ながら選ばれませんでしたので、この点は仕切り直しです(笑)。

こういうビジョンを考えた1つの背景に、大学人として教育とか研究は当然なんですけど、**大学自体多様な学びに直接結びつくようなものをやるべきではないかという思いをここ数年強くしてきたことがあります。**その1つが、2016年度から外国人生徒入試という特別入試を国際学部が国立大学で初めて導入したことがあります。韓国、中国、ブラジル、ロシア、フィリピンという多国籍の生徒さんたちを受け入れることができましたし、学校としては全日制はもちろんなんですけど、定時制からも特別定員枠を持っている高校からもブラジル学校からも受け入れることができています。そういうことも含め、大学自体が直接的に多様な学びの場を切り開いていくことができないかという思いが強くなって、それで自主夜間中学の話っていうのをビジョンに載せたっていうことがあるわけです。

今日は、これから自主夜間中学が目指している学びというテーマで4人の関係者からお話頂きますし、大学院生と学部生がこういう自主夜間中学が栃木にできたらいいなっていうプレゼンをするんですけど、夜間中学の必要性とか重要性を深く考えるようになったきっかけ、それから夜間中学と同時進行で定時制の高校にも目を向けていますので、そういう話を少し織り交ぜてお話ししたいと思います。夜間中学の必要性と重要性については、2人の方との出会いが決定的だったかなと思ってまして。

1人は、里見清子さんという84歳の女性の方です。昨日報告された桜井さんのご協力で、3、4年前に関西の夜間中学でフィールドワークさせてもらいました。その時に、全国夜間中学研究大会で夜間中学の生徒さんたちが交流するセッションがあるんですね。そこに、参加させてもらいまして、僕は何をしたかと言うと、ずっと生徒さんたちの顔を見てたんです。顔と表情というか、お話しされる様子をずっと見てて、説明は難しいんですけども、非常に気になる女性が1人いたんです。何とも言えない顔をしていました。他の人の話に真剣に一言も漏らさないように耳を傾けていて、一人一人の話に表情が変わる。本当に真剣に聞いていることが伝わってきたと言うか。その人が里見さんで、フィールドワークの時に幸いにも一対一のインタビューに応じてくれた方なんですけど、あえて簡単に言うと「夜間中学の学びの場を受けるまでは、非常にしんどい、ふさぎ込むような生活をしていた」と。そして、夜間中学で学べるようになって、「生きることが非常に楽しくなった」と、そういう人なんです。その夜間中学の先生方に聞いても、里見さんの暗い顔は見たことがなく、楽しそうな顔しか見たことがないと。だから、ふさぎ込んでいた時があることは信じられないという話なんです。夜間中学の学びというのは、こんなに人を変えるんだなということを教えてくれた、その84歳の女性の存在が忘れられないというのが1つです(『第三部 夜間中学生の語り』『平成29年度科学研究費補助金成果報告書』研究代表者田巻松雄、113-119頁)。

昨年出版した本で取り上げたTさんは、10歳で日本語能力0で日本に来て、中学で適応できなくなって、不登校になり、非行、少年院2回、犯罪と続き、刑務所服役中に在留資格を失いオーバーステイになり、約3年間収容された後に、去年の11月に送還された人です。彼から送られてきた何10通に及ぶ手紙の中に一カ所だけ夜間中学という文字が出てくるんです。そして、会話の中では何度も定時制という言葉が出てきます。定時制で学びたい、あるいは公立夜間中学で学びたいという言葉が出てきます。

当時の彼に夜間中学の存在を伝えたり、定時制に進学するということをサポートする人は居なかった。学ぶ機会が得られず、転落の人生を歩んでしまったわけですが、彼にもそういうチャンスがあれば全然違った人生になったと思います。そういう点で夜間中学の重要性は、様々な観点から語ることもできると思うんですけど、僕にとってはこの2人との出会いがある意味決定的に大きかった。

#### ヒントをくれた札幌市立大通高校

夜間中学の必要性に対して、大学がどうするべきかというのを考える時にヒントをくれたのが、札幌市立の大通高校という高校です。ここは元々どういう理由で注目したかと言いますと、北海道で唯一、外国人生徒のための特別枠を設けている学校なんです。北海道で唯一、しかも道立でなくて、札幌市立なんです。なぜ市立高校が特別枠を設置したの気になってホームページとか色々見たんですけど、どうも情報がよく分からない。一緒に調べていた学生も良く分からないということで、一緒に訪問しました。



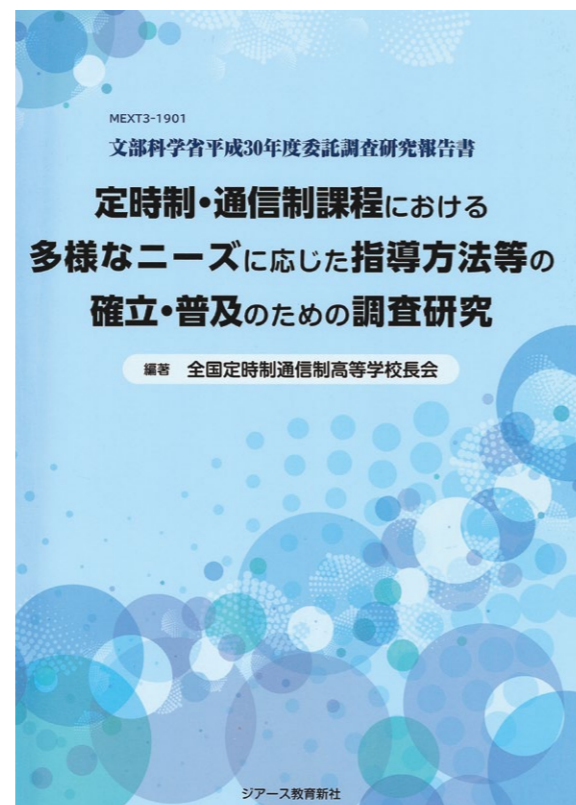
校長先生の奥さんが夕張出身で、僕も夕張出身だったので意気投合しまして、色々話が盛り上がったんですが、特別枠の話は兎も角として、学校全体が多様な生徒を受け入れることに実に意欲的な学校だったんです。例えば、外国人生徒については日本語の試験は行わない。だから、日本語能力0でも入って来る。「どうするんですか」と聞くと、「4年かけて卒業してもらう」。1年目に徹底的に日本語指導する。2年、3年、4年で教科指導するという考え方です。だから4年必要になる。不登校経験者もたくさん来るんだけど、「中学校の時の成績は全く考慮しない、意欲だけあればいい」という受け入れの方針です。そういう生徒さんがたくさん入ってくれば大変なわけですが、ここでしか学べない生徒さんもいるわけですから、それはもう頑張るしかないんだという発想なんです。

ただ、どんなに頑張っても中退する子もいるし、希望通りの職を見つけられないで卒業していく子もいる。そういう生徒には、いつでも戻って来れる体制づくりをしていると。一回離れたらおしまいではないという考えにも共感するところがありました。一番興味深かったのは、多様な生徒を受け入れるので学校の教員だけではとても十分な指導ができないと宣言していたことです。なので、地域の人達に支えてもらうという発想なんですね。校長先生は、「**社会に最も近い学校づくりを目指す**」と強調されていました。多くの市民はもとより、北海道大学を始め、様々な大学の関係者が関わっているのではないかと思います。多様な学びの場を地域で支えることの重要性を教わった気がしました。こういう発想を大学の関係者はもっと持つべきで、先ほどの言葉を使えば、もっと地域に開かれた大学になっていかねばならないと。

文科省の委託調査で定時制と通信制課程の全国調査が2年ほど前に実施されたのですが、これはものすごく面白い調査です(文部科学省平成30年度委託調査研究計画書『定時制・通信制課程における多様なニーズに応じた指導時方法等の確立・普及のための調査研究』編著 全国定時制通信制高等学校長会)。文科省は多様なニーズを5つに分けています。(1)不登校生徒、中途退学を経験した生徒のニーズ、(2)特別な支援を必要とする生徒のニーズ、(3)日本語指導を必要とする生徒のニーズ、(4)経済的に困難を抱える生徒のニーズ、(5)非行・犯罪歴を有する生徒のニーズ。この5つのニーズを持った生徒を、定時制と通信制が積極的に受け入れている。この調査は、全国定時制通信制高等学校長会に加盟している639校に、この5つのニーズに該当する生徒がどのくらいいるか、それからその生徒たちにどういう取り組みをしていますかっていうことをアンケートで聞いているんですね。ほとんどの高校が自由記述の回答をされていて、生徒の在籍状況と取り組みが知ることができます。

また、優れた教育実践を行っているとして評価された22の高校が事例報告をしています。全国の高校がどういう取り組みをしているかという実践例が、記されているんです。定時制通信制の高校では、現在、多様な生徒に対する学び直しの場の提供が非常に積極的に行われていると言えると思います。

宮城県教育委員会が今年の春に『多様な学びの在り方検討部会報告書』を出していて、それを見たことが縁で、先週4つの高校を宮城県で訪問してきました。美田園という宮城県で唯一の単独の通信制高校と3つの定時制高校です。改めて、定時制と通信制に在籍している生徒の圧倒的多くは元不登校の経験者だという事実に触れてきました。中学校はほとんど学校に通えていなかった子たちが、不思議なことに定時制では毎日学校に来ているし、通信制で一所懸命勉強しているんです。様々な観点からの意見交換をしてきましたが、これは何なんだろうかっていう話を一緒にしてきましたが、定時制と通信制の社会的意義を強く感じられる機会でした。美田園のある教員が言っていたことが印象的なんです、その方は元全日制の教員で、「今から振り返ると全日制で私がやっていた教育には非常に大きな問題があった」と認めておられて。通信制に来てから初めて画一的なというか、人のペースを考えないというか、そういう教育の在り方



優れた教育実践を行っているとして評価された22の高校が事例報告をしている

の問題を強く意識するようになったとのことでした。公立・自主夜間中学の学びと定時制通信制の学びには**すごく重なるところがあって、一口で言えば、多様なニーズに応えようとしているという特徴があるのだろう**と思います。

### 徳島県に注目

昨日、札幌市が公立の夜間中学を単独校として設置するというお話を聞き、すごく嬉しくなりましたし、大いに期待したいと思います。実は私、徳島県教育委員会に2度ほど行ってきました。徳島県が初めての県立夜間中学を作ることを決めただけです(2021年4月開校予定)。今までは、市立か東京都・区立ですね。なぜ、徳島県が県立に踏み切ったか知りたくて行ったんですが、お話を聞いて印象的だったことがいくつかあります。1つは、「ニーズ」に関することです。夜間中学を作るとか作らないとかいう議論の際に、どれだけニーズがあるかというのを把握して、必要性を検討する自治体が多いと思うんですけど、徳島県もそのニーズ調査をやっているんですね。それで、僕がちょっと正直に「ニーズ調査をやったようにニーズが確認できなかったとしたらどうしてましたか。」という質問をしたところ、「それでも作るという決定は変わりません」と言う返答でした。

徳島県は、「10年前の国勢調査で1,425人の義務教育の未修了者が確認されていて、これで十分です」と言い方をしたんですね。これと、不登校生徒が毎年一定数いるというその事実があるだけで、夜間中学の必要性は十分あると認識できるので、ニーズ調査はあくまでも準備を進めるために実施したと。こういう考え方は、都道府県の全ての関係者が持つべきではないかと正直思います。そして、県立にするのには十分な教員配置を可能にするためだということと、高校進学をより支援するために夜間中学を定時制高校に併設する。ニーズ、県立、定時制高校への併設、この3つの考え方は、非常に僕は革新的な考え方だと感じました。

徳島県教育委員会の指導主事から頂いた名刺には、「**徳島は宣言する VS東京**」と書かれています。東京を非常に意識していて、負けたくないという意思表示があって、非常に面白く、やるきを感じました。

栃木県では、10年前の国勢調査で約3,000人の義務教育未修了者が確認されています。県のサイズが違うので義務教育未修了者の多少について単純な比較はできませんけども、徳島県的な発想でいえば、ニーズとしてはこれで十分ではないかと。それから、栃木県教育委員会は、2019年10月から12月にかけて、県内在住者(外国人を含む)を対象に、夜間中学の設置に係るニーズ及び課題等の現状を把握するための調査を実施しましたが、その結果は、有効回答数960通のうち、「夜間中学があったらよいと思うか」の質問に、853通(88.9%)が思うと回答しています。ですから、昨年のニーズ調査の結果も踏まえると、栃木県で夜間中学を作らなければいけないニーズは十分にあると言えると思います。

最後に大学の関わりや役割ですが、昨日以来「一人一人の置かれている状況に寄り添う教育」とか「一緒に学ぶ」等の表現で、公立・自主問わず夜間中学が大事にする学びの特徴が発信されてきていると思いますが、大学関係者こそこういう学びの重要性を理解するべきではないかと思っています。大学関係者の中でも夜間中学の存在を知っているのはまだごく一部だと思います。学長選考の個別の面接で11名の選考委員と30分の面接をしたんですけど、自分は最初の10分は夜間中学の話をして、それで大学が地域に開かれることの重要性を強調したんです。夜間中学についてほとんど知らなかった選考委員もいたと思いますが、面接が終わるまでに夜間中学に関する質問も出ましたので、1つの問題提起にはなったかなと思います。

**そういう意味では大学関係者がまず夜間中学の学びの重要性を理解して、大学の教育に活かす発想を専門分野に関わらず持つべきだと思いますし、地域における多様な学びの場の構築に向けて大学が積極的に関与・協力していくことが問われると思います。**

それから、教育実践という言葉が昨日も出てきましたし、先の文科省の報告書にも教育実践の優れた事例が報告されています。教育実践を強く意識し、全国的に大学が夜間中学をどのように支えるのかについて真剣に考えるべき時期に来ているのではないかと思います。

文科省も公立夜間中学について「すべての都道府県に最低1校作ろう」と言っているわけですし。公立でも私立でもない国立大学こそが夜間中学の拡充・充実に積極的に関わっていく、このような教育実践を目指すべきだということを強調して話を終えたいと思います。



忘れないようにというように冒頭に言いましたが、来年も出来れば、公立・自主夜間中学の社会的意義と課題について、直接お会いして意見交換できればと思います。この1年、新しい展開が生まれることを願いつつ、どうもありがとうございました。

(追記:今回のイベントでの報告や質疑も参考にして、2021年念頭に2つの論考をまとめてみました。「コロナ禍のこんな時こそ、夜間中学の必要性はいよいよ増している」、「地域により開かれたセンターへー多様な学びの場を地域で支えるために」の2つで、いずれも『国際学部附属多文化公共圏センター年報』(2021年3月刊予定)に掲載されます)。

## 資料1 栃木県の義務教育未修了者、不登校児童生徒、外国人

2010年実施の国勢調査によると、未就学者が全国に128,187人存在した。つまり、15歳以上の人口比でおよそ1000人あたり1.2人存在した。表1は全都道府県の未就学者数である。1番が大阪府で12,195人、2番が北海道で7,374人、そして東京都で7,244人となっている。栃木県は第15番目であった。

国勢調査による未就学者とは「小学校に在学したことのない人又は小学校を中途退学した人」と定義された。この定義による未就学者数は、義務教育未修了者全体よりもはるかに少ない数値であると思われる。理由は3つある。1つは「未就学者」は、小学校を卒業していないか入学していない人という定義であり、小学校は卒業したが中学校を卒業していない人々の数は含まれていない。もちろん、形式卒業者も含まれない。2つ目は、プライバシー情報となるため、被調査者が回答していない可能性もある。3つ目は、文字を読むことができないため回答できなかった可能性も考えられる。

表2は、栃木県内の未就学者数を市町村別に示したものである。宇都宮市における未就学者数が突出しており、924人で全体の約3割を占めている。そのあと、足利市413人、那須塩原市213人、さくら市151人、鹿沼市125人、栃木市115人、小山市114人と続いている。

表1 全国の未就学者数

都道府県名	「未就学者」数(人)	都道府県名	「未就学者」数(人)
北海道	7,374	滋賀県	1,443
青森県	2,687	京都府	3,249
岩手県	1,731	大阪府	12,195
宮城県	1,643	兵庫県	6,271
秋田県	2,145	奈良県	1,125
山形県	1,281	和歌山県	1,341
福島県	2,344	鳥取県	764
茨城県	2,842	島根県	841
栃木県	2,745	岡山県	1,306
群馬県	2,230	広島県	2,593
埼玉県	4,787	山口県	1,678
千葉県	3,991	徳島県	1,425
東京都	7,244	香川県	899
神奈川県	5,166	愛媛県	1,329
新潟県	2,158	高知県	1,016
富山県	726	福岡県	6,543
石川県	815	佐賀県	877
福井県	664	長崎県	1,868
山梨県	1,114	熊本県	3,028
長野県	2,061	大分県	998
岐阜県	1,405	宮崎県	1,219
静岡県	2,509	鹿児島県	3,448
愛知県	4,372	沖縄県	6,541
三重県	2,206	計	128,187

表2 栃木県内の未就学者数

合計	2,745
宇都宮市	924
足利市	413
栃木市	115
佐野市	93
鹿沼市	125
日光市	95
小山市	114
真岡市	36
大田原市	145
矢板市	23
那須塩原市	213
さくら市	151
那須烏山市	3
下野市	25
上三川町	21
西方町	0
益子町	28
茂木町	0
市貝町	6
芳賀町	4
壬生町	93
野木町	1
岩船町	20
高根沢町	2
那須町	62
那珂川町	13

### ・不登校児童生徒

不登校は、病気や経済的理由を除き、年間30日以上欠席した児童生徒を対象としている。栃木県内の不登校児童生徒

数は、2013年度から増え続けている。2017～2019年度のデータを示す。2017年度、(病気や経済的理由以外の)不登校を理由に長期欠席した児童生徒数は2,594人、不登校児童生徒の割合(100人当たりの不登校児童生徒の割合)は1.69%であった。2018年度では、2,837人(1.87%)、2019年度では3,107人(2.08%)と推移している。公開されている人数で小学校と中学生を合わせたものであるが、例年、中学生の割合が約7割強を占めている。

### ・外国人

2019年12月31日現在の栃木県在住の外国人住民数は42,835人(2018年度40,659人)で7年連続増加し、過去最高となった。国籍・地域数は118ヶ国・地域(前年度115ヶ国・地域)で、県人口に占める割合は2.21%(前年度2.08%)である。国籍・地域別の上位5か国は、ベトナム7,264人(17.0%)、中国6,854人(16.0%)、フィリピン5,283人(12.3%)、ブラジル4,151人(9.7%)、ペルー3,075人(3.2%)である。市町別では宇都宮市が一番多く9,588人(22.4%)、以下、小山市7,084人(16.5%)、足利市4,886人(11.4%)、栃木市4,361人(10.2%)、真岡市3,468人(8.1%)と続き、この5市で県全体の約7割を占めている(産業労働観光部国際課 2020)。

外国人労働者の雇用状況調査結果を見ても、栃木県内における外国人労働者の増加は顕著である。すなわち、外国人労働者数は、2016年度(10月末現在、以下同様)18,366人、2017年度21,235人、2018年度24,016人、2019年度27,385人と増加し続けている。

## 資料2 栃木県における夜間中学に関するニーズ調査

2019年10月7日から12月25日まで栃木県における夜間中学の設置にかかる需要及び課題等の現状を把握することを目的として、「夜間中学」に関するニーズ調査が行われた。調査対象は県内在住の方(外国人も含む)である。調査方法はアンケート調査である。はがき付きリーフレットを配布及び啓発用ポスター計40,257枚を493箇所(ポスターのみも含む)に掲示・配布された。有効回答数は960通(日本語版877通、英語版28通、中国語版14通、ベトナム語版12通、ポルトガル語版29通であった)。

調査結果は、有効回答数960通のうち、「夜間中学があったらよいと思う」は853通(88.9%)である。「夜間中学があったらよいと思わない」は104通である。無回答は3通である。

表3 「夜間中学があったらよいと思う」の居住地・国籍・年齢別内訳

居住地別 (上位5市別)	国籍別 (上位5か国)	年齢別			
宇都宮市	457通	日本	724通	15～19歳	172通
栃木市	63通	ベトナム	17通	20～29歳	96通
小山市	46通	中国	17通	30～39歳	81通
真岡市	39通	ブラジル	16通	40～49歳	173通
鹿沼市	32通	ペルー	13通	50～59歳	128通
				60歳以上	194通
				無回答	9通

表3は、「思う」853通の内訳で、居住地別(上位5市町)、国籍別(上位5か国)、年齢別の結果を示している。居住地別では宇都宮市が457通で突出しており、半数を超えている。国籍別では、日本が724通で約9割を占めている。全国公立夜間中学と自主夜間中学の学習者に占める外国人の割合の高さを踏まえると、やや意外な結果となっている。年代別ではどの年代にもみられるが、15～19歳と40～49歳にやや集中傾向がみられる。15～39歳までと40歳以上を比較すると、前者が41.4%、後者が58.6%である。

「思う」と回答した人に理由を聞いたところ、多い順に、「自分が通いたい」(197通(23.1%)、「家族や親族に通わせたい人がいる」91通(10.7%)、「友人や知人などに通いたいという人がいる」154通(18.1%)、「その他」466通(54.6%)となっ



た。「その他」が466通と極めて多いが、参考として、・より多くの人に勉強できる機会があると良いと思うから、・外国籍の人や様々な理由で学習ができなかった人のために、・不登校の増加、外国籍の保護者の増加に伴い、学びの機会があれば勤めたいと思っているから、の3例が挙げられている。この調査結果は、2021年3月に公開された (<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/houdou/yakantuugakutyousakekka.html>、最終閲覧2021年1月11日)。

資料1で、栃木県内における2,000人を超える義務教育未修了の存在、増加する不登校生徒と外国人住民の現実を確認した。夜間中学への入学ニーズが確実にあることが示唆されている。そして、800人を超える県民が「夜間中学があったらよいと思う」と回答したことは重い。栃木県教育委員会及び県内の各自治体教育委員会および関係者が、夜間中学の必要性を認め、設置に向けて果敢に動くことを切望する。

## 自主夜間中学を目指す学びとは？ 福島駅前自主夜間中学

福島駅前自主夜間中学設立の軌跡は大谷一代さんが、44歳で亡くなった実弟が不登校のすえに苦しむ姿を目の当たりにし、「弟と同じ境遇の人を夜間中学ですくいたい。」と仲間たちに呼びかけたのがきっかけとなり、運営母体である「福島に公立夜間中学をつくる会」の活動を2010年8月に発足し、県内唯一の「自主夜間中学」を2011年1月に開校した。自主夜間中学の名前を「福島」ではなく「福島駅前」としたのは、福島に多くの自主夜間中学が出来てほしいと思う願いからである。

読売新聞は2020年8月19日から23日まで、「ともに学ぶ夜間中学の風景」と題して、福島駅前自主夜間中学の授業

風景を取材し、自主夜間中学に集う人たちを通して「学ぶことに意味」を考える記事を連載した。紙面の見出しには、「正答を求めない授業」、「43歳の学ぶ情熱 見守る74歳」、「『分かった』喜びの共有」、「教えることも学ぶこと」、「誰もが学び直せる場」、「弟の不登校開校後押し」、「認められ伸びていく」、「名物先生 生徒を送迎」、「みんなで作った校歌」、「『あまちゃん』作曲 大友さん協力」、「『学びたい』かなえる」、「社会の多様な受け皿に」といった言葉が並び、自主夜間中学ならではの雰囲気伝えてくれる。

2020年に2回見学させていただいたが、特に校歌が印象的であった。福島駅前自主夜間中学では、みんなで作った校名のない校歌があり、学習の合間に全員で歌うことが日課となっている。

### ○大谷一代 「福島に公立夜間中学をつくる会」

私達は2010年に福島に公立夜間中学を作ろうと思って活動を始めたんですけれども、中々難しいということで、2011年の1月から福島駅前夜間中学というものを作りました。そこで生徒の方と一緒に勉強をしています。福島駅前自主夜間中学は駅前から数分の距離にあります。福島県は広いので自主夜間中学もたくさんできてほしいと思っています。それで、福島駅前なら一か所なのでわかりやすく、場所を特定するためにこの名称をつけました。

昨年、いわきにいわき自主夜間中学、南相馬に南相馬自主夜間中学ができました。県内に自主夜間中学が広まってきたようで大変嬉しいです。それで、自主夜間中学ではどういう風に勉強をしているかといいますと、主にマンツーマンです。まず始めに私達は、小学1年から中学3年までの教科書を用意します。勉強をしたいという方の中には、勉強したいんだけど何を勉強したらいいかわからないという方もいらっしゃるんですね。教科書の山の中から自分が興味を持っている分野で相応しい学年のものを選んでもらって、とりあえずこれから始めましょうということです。既成の教科書はとっかかりには有用ではあるというふうに思っています。続けてずっと勉強される方の中には自分でテキストを用意

したり先生が用意したりしています。先生と生徒が組になって長続きするようなところでは、教科書の枠を抜け出して勉強することも多いです。

自主夜間中学では何を目標しているかということなんです。私の考えとしては、人権の保障といいますが、やっぱり読み書き計算は日本社会で生きていく上には大変必要なものだというふうに思っています。ですので、それを皆さんに提供したいところではあるんですけども、私達は夜月2回、昼月2回の計4回しかできないんです。ですから、その人が自分でやりたい科目をお手伝いするぐらいしかできません。前半と後半に分かれて、真ん中にコミュニケーションタイムという、みんなで話し合う時間を設けているんですが、人によっては前半と後半続けて同じ科目を勉強する方もいらっしやいますし、前半と後半別な科目を勉強される方もいらっしやいます。

ところで、福島駅前自主夜間中学のスローガンは「生徒が主役」というものなんです。その「生徒は主役」というのを掲げるにあたっては、色々ありました。2017年だったでしょうか。私達のボランティアスタッフが、自分の価値観を生徒の方に押し付けようとして傷つけてしまうということが起こってしまいました。どのようにしたらいいんだろうと話し合いましたところ、そんな話し合いの席の上でも、「当たり前のことを言われて不平を言う方がおかしい」という意見を言うスタッフもいて、本当に自主夜間中学を解散してスタッフを集め直した方がいいのかもしれないと思うくらい悩んだんです。けれども、やはりみんなの意識改革を徐々にやっていこうということになりました。それで松戸自主夜間中学のスタッフを講師に招いて勉強会をしたり、厚木の自主夜間中学「あつぎえんぴつの会」を見学に行ったときに「生徒は主役」と掲げているのを見まして、これだと思って、うちの会でも取り入れることにしました。

「生徒は主役」というスローガンを掲げたら、「そんなスローガンだけ掲げてどうなるんだ」と反対意見もあつたりしましたし、「生徒を傷つけたような方がそんな他所の借り物の言葉を使っても」みたいなことも言われたりもしました。けれど、現役の高校教員の方がその高校の書道の先生に頼んで「生徒は主役」と大きく書いてもらってそれを掲げることにしました。

例えば、真ん中のみんなのコミュニケーションタイムの時間の時、夜間中学設立運動のちょっと専門的な話になって長引いた時に、後からの講師ミーティングで、『あれは「生徒は主役」にするといえるのだろうか』とか「勉強をするのはこの自主夜間中学の主体じゃないのか」というような意見が出たりもしましたが、みんなの意識が同じ文字を見るにあたって段々変わっていくんじゃないかと思っています。やはり自主夜間中学は、私の考えでは人権保障の実践だと思っており、ただ単に学問をするというだけではなくて、その人が社会で有用に生きて、有用にというか自分でいきいきと生きていけるようにその手助けをするということで、その一環としての勉強だと思っています。なので勉強さえできればなんでもいいということではなくて、その人の意思を尊重して、その人が自分らしく生きていけるように手助けをするのが大事ではないかと思っています。

同じ教室で誰でも参加できるようにと、福島駅前自主夜間中学の学習者の皆さんには費用は掛からないということですが、福島に公立夜間中学をつくる会の会員という形で会費を2000円ずつ集めてやっております。あとは主に寄付で経営が成り立っています。生徒の方の中には、ぜひ費用を払いたいと教える方もいて、そういう方には、生徒でありながらも会員になって頂いて、会の運営を支えて頂いております。年に1回総会がありまして、参加者でしたら誰でも参加できます。それで大体は会のその年の運営方針を語ったりしております。

それで、夜間中学設立運動に関しましてうちの会はどのような活動をしているのかですが、実はまだ福島県内に公立夜間中学を作るということの目的が立っておりません。今までの成果としては義務教育機会確保法ができる前に、法整備を求める意見書を県議会から国に提出しました。北海道・神奈川県に続いて、福島県が全国で3番目だったことを誇りの



「生徒が主役」をスローガンとする福島駅前自主夜間中学の取り組みについて語る大谷一代



2019年2月16日、福島駅前自主夜間中学校校歌発表会が開催された



ように思っております。

実は今年の10月に福島に公立夜間中学をつくる会ができて10年目にして福島市長との初めての面談が成立しました。20分の内容だったんですけど、市長が冒頭に「福島市立の夜間中学は作らない」とはっきり断言なさいました。それで、福島県立の夜間中学は福島市内にできるように働きかけをしていくということでした。そういうふうになっているんだら、思っているのにはっきり言わないでことで濁されるよりは、そういう趣旨だと理解して、この先も運動を進められるということでは有意義かな、と聞いていたんです。それからその市長の話を受けて福島市内県議会議員の人達と次々とお話しさせて頂いたんですが、その中の一人が「福島県立の夜間中学は難しいから。とりあえず福島市だけではなく他の市にも働きかけてはどうだろう」とみたいなことを言われる方がいました。それでなるほどと思いついて、福島県内で手を挙げる市町村は本当にないのかどうかを確認するところから始まると思います。これから県内の各市の可能性を探りながら福島県立の夜間中学も模索していくという方針でやっていくことになるだろうとも思っています。

「福島に公立夜間中学をつくる会」が掲げた「福島」は広く福島県のつもりだったんですけど、もっぱら今まで福島市を指すと思われることもあり、もっと福島県内の広い市に働きかけをしていきたいとは思っています。けれど、福島県の教育委員会では昨年末で文部科学省の調査研究費を5年連続受け取って、夜間中学の調査研究をしてきていたんですが、今年度は文部科学省の調査研究費がなくなったので、予算がなくなったと言われまして。それで、9月の県議会で去年の半分くらいの予算を充てるということでした。

今年も夜間中学セミナーというのを県内6か所でやりました。「こんばんはII」という夜間中学のドキュメンタリー映画の上映や県の教育委員会の担当者による夜間中学の説明などが行われています。それに私は南相馬と会津と一緒に行って発言させてもいました。「今なら文部科学省の補助金が出るので、この市でも手を挙げてくれたら、夜間中学作れますよ」とみたいな話もついでにさせて貰いました。県の教育委員会の人の趣旨にも合致してるので、喜ばれたりしました。

それで、ともかく文部科学省で夜間中学設立準備の補助金が出るのは、今年度・来年度・再来年度の3年間しか今のところ計画していないようなので、福島県は広いので数か所夜間中学が必要だと思っているんです。補助金が出るうちに県内に一校ぜひ作りたいというふうになってきて、ちょっと焦る気持ちもあるんですが、働きかけを強めていきたいと思っています。ちなみに、福島県の教育委員会の人は、夜間中学を作るとしたら必要だと思うから作るのだから、補助金が出るから作る、出ないから作らないということではないと言われるのですが、出なくなっても作るかなという不安が若干あつたりするので、ぜひとも再来年の補助金を受け取れるように、今年・来年と全力で行政に働きかけをしていきたいというふうを考えています。

私達自主夜間中学はできるだけ生徒のためになるようには努めているんです。けれどボランティアの月数回の集まりですので、限界があります。そして、公立夜間中学には公立夜間中学の限界もあると思います。ですので、私達の自主夜間中学は公立夜間中学ができた後も続けるつもりです。同じ町に公立も自主も両方の夜間中学があるのは理想だと私は思っておりますので、これからも活動を続けていきたいという風に思っております。どうもありがとうございました。

## 岡山自主夜間中学校

### 〇城之内庸仁

私が夜間中学校をつくるきっかけを頂いたのは、大谷さんの福島駅前自主夜間中学の話を見て知ったからです。設立は2017年の4月で、現在(2020年11月)は生徒数221名、スタッフ数194名の会に成長いたしました。最初はたった私1人からのスタートでした。なかなかうまくいかず、半年以上、生徒さんもスタッフさんも来られませんでした。もはやここまでか、というところまで来たのですが、北海道の工藤さんをはじめとした全国の先輩方が、物心ともに支えてくださいました。

岡山自主夜間中学校は「中学校」という名前がつくんですが、小学生から上は80代の生徒さんがおられ、幅広い年代の生徒さんが来られています。不登校、形式卒業、未就学、在日コリアン、外国籍等のニューカマーの方々、ほんとに様々

な多くの生徒さんが来られています。もうここにおられる先生方や皆さんは、色々な視察等でお気づきかと思いますが、夜間中学の生徒さんのいわゆる「層」というのはバラバラなんですよね。例えば、公立夜間中学校は8割9割近く外国籍の方がおられますよね。でも、昨日話があった桜井先生の学校だと、残留孤児、引き上げの方が多かったり、それから関西の方では在日コリアンの方が多かったり、ほんとに地域ごとに生徒さんの「層」が変わることがわかります。

今こういうチラシを作って配っていますが、チラシを作ってそれをいろんな場所に置いていても厳しいですね。何故かと言うと、読み書きができない人はチラシそのものが読めないからです。そのためにも、私たちがしなくてはいけないことは、このチラシを携えて、直接学びたい方を見つけに行く、またはそのチラシを受け取った方に「身の回りにお困りになっている方はおられませんか」と声を掛けていくことです。例えばニーズ調査など、どうしても行政主体になると、公民館をはじめとした、県や市の施設にしか基本的に置くことはできませんから、仕方のないことなのですが、ただ、そこでおしまいになってしまう行政をどう支えていくか、行政と対立していくとかじゃなくて、要するに出来ないことがあったら、私たちがしていく、そういうことが大切だと思います。

去年NHK総合の「NEWS7」の全国放送において、私は「日本には読み書きができない人はいない、と思っている人がたくさんいるのではないか」と言いました。国立国語研究所の野山先生を中心に調査が予定されていますが、日本では識字調査が70年以上なされてないんです。

岡山では2010年の国勢調査では未就学の人は1,306名でした。国勢調査のすごい所はどここの市、区、場所に何人そういった方がいるのかわかることです。そして、そのようなデータをもとに、公立夜間中学の設置を札幌市で実現された北海道の工藤さんとお話されましたが、工藤さんの戦いは、まさに最前線でやられた1つの大きな結果だと思います。2020年の国勢調査では、今までは小学校しかなかったものが、中学校つまり義務教育全部を調べていく、このことによって、義務教育全体の未就学者の数が明らかになります。いわゆる小学校を卒業していない人は、学歴ゼロ、中学校を卒業していない人は、小卒なんです。

私も今は法人の代表の立場になりましたが、昼間は中学校の教諭もしています。二足のわらじを履いています。朝6時台には家を出て、いろんな子どもたちと接する生活をしています。

年々増えている全国不登校児童数は18万人、90日以上欠席している生徒は7万人以上います。夜間中学は、こういう学齢期の生徒も来れる学校だということを確認しておきたいと思っています。夜間中学は、未就学者、形式卒業者、外国籍の生徒さんだけのものではなく、学齢期の生徒も来れる、多様な教育の選択肢の一つになると思います。

この記事は岡山の地元紙ですが、宇都宮でも全国至る所でもこういう記事が出たと思います。今日は外国語、外国籍に詳しい先生方もおられると思



最初はたった一人からのスタートだった岡山自主夜間中学校について語る城之内庸仁





います。2万人以上の子どもたちがいまだどこにいるのか分からないと言う。つまり学校に通っていない児童生徒がいるということです。先ほど田巻先生からお話がありましたように、そういう子どもたちは犯罪に巻き込まれたり、犯罪を犯すリスクが高いと言われています。このような実情を私たちは重く受け止めなければならないと思います。

### テレビ放映の一部

ナレーション:「字の読み書きができない自分はクズだ」かつての教え子の言葉が胸に刺さりました。岡山市の中学校教諭城之内庸仁さんが夜間中学校設立を目指すきっかけです。

城之内:「先生、僕はクズなんだ。字も書けんし。」僕はかれの言葉を聞いた時、そういうふう言わせている我々の世の中がクズじゃないかと思いました。生徒さんは本当にここに来るのにも精一杯で来られているんです。今まで勉強ができないということを書えなかったんです。学ぶことは生きること、これを私は何度も唱えたいです。電車に乗るのが怖い、バスに乗るのが怖い、つまり字が読めなくてわからないからなんです。十分に学ぶことができていないために、生活そのものが脅かされています。

現在、岡山自主夜間中学校では、数は少ないものの日本語教師の資格をお持ちのスタッフさんもおられます。公立夜間中学でも問題になっているのは、教える対象に対して指導がマッチしているのか、どうかということが問われています。札幌の工藤さんのところは昨日の話にもありましたが、しっかりそこを徹底した議論で改善されている、これは公立も自主もそこを疎かにしてしまうと、生徒不在の一方的な授業となってしまうと思います。

今フェイスシールドとかマスクとかを着用しながらの授業で、生徒さんもまたスタッフさんも大変窮屈な状態ですが、色々な国の人がこういう風に一生懸命に来てくれています。ありがたいことに理科の実験や音楽の授業など色々挑戦しています。読み書き計算を中心にするのはもちろんなのですが、中学校と名をつけるのであれば、5教科もしくは9教科あったほうが良い、むしろあるべきだと思っています。

福島の大谷さんの学校も生徒さんから授業料を徴収されていないということでしたが、岡山も生徒さんからは一切頂いていません。これは私自身の考えとしては、行政に対するメッセージと考えています。義務教育は授業料を取らない、ということになっているはずなんです。だからどんなに苦しくても授業料は頂かない。本来は、行政が担保しなければいけない学びの場である夜間中学が設置されていない、ということは学習権の保障をしていない。だからこそ、自主であっても、生徒さんは義務教育相当の学習をされるので、授業料は頂きたくない、ということを買きたいのです。

この新聞記事の生徒さんは、今85歳位になられたんですけど、12歳で岡山に丁稚奉公のような形で来られた方です。こういうおばあちゃんたちみたいな方は決して、岡山や札幌、福島だけの話ではないのです。宇都宮にもおられるはずなんです。そして、こちらの別の生徒さんは、元々奄美大島の沖永良部(おきのえらぶ)出身の方で40年間岡山の倉敷で暮らされています。岡山自主夜間中学校で勉強されて、それから定時制の高校に合格されて今高校2年生なんです。10代の生徒が実際に通う高校と一緒に通われていて、「60歳も歳が離れている私にたけちゃんと声を掛けてくれる」と。実に素晴らしいなと思います。生徒さん一人ひとりが輝かれています。



岡山自主夜間中学校で勉強していた後に定時制高校に合格した70代の女性

こちらは一斉授業の様子です。外部の講師をお呼びして色々な話を教えて頂きます。こちらは保健というか理科の授業でコロナウィルスについてどういう風に気をつけましょうかというところですね。

こちらは岡山自主夜間中学校開設3周年の時の様子で、米田さんという方で、去年、奈良市立春日中学校夜間学級を卒業された方です。なんと勉強熱心な方で、卒業後、ご縁があって、岡山自主夜間中学の生徒になると言われて今、毎月1回、岡山の授業に通われています。ほんとに凄い方です。

こういう形で皆さんと連携し、中にはLD(学習障害)のような方、これは子ども大人に関わらずおられますが、いかにそういう方にとって勉強しやすいかっていうのを考えておかないといけないと思っています。学習環境や学習方法をしっかり整えておかないといけません。こちらの生徒さんは、小さい頃そろばんができなかったから何とかやってみたくて、今、一所懸命にそろばんを学ばれています。

それから、こちらは去年奈良市立春日中学校夜間学級で教頭先生をされていた深澤先生という方です。この先生が今、月に1回来てくださって社会科の一斉授業を担当されています。個別学習や一斉授業だけでなく、私たちのところでは宿泊に伴う校外研修も実施しています。ここでは、集団(体験)学習も学んでいます。形式卒業の方、小学校、中学校行っていないという方にとって、集団行動、集団学習の経験がないので、ただ単に読み書きそろばんができれば良いという話ではないのです。私たちは読み書きそろばん以外にも学校教育に準拠した行事も準備しています。

公立夜間中学ではこういう事が実際にできるんですが、自主夜間中学となってくるとお金の問題もあるので、なかなかできません。けれども、このスライドを見て頂くとわかるように、やっぱり楽しそうですね。

童謡の「ふるさと」を英語で歌おうと、英語で歌うことが上手な先生が指導されて、生徒さんは一生懸命練習して、実際に歌えるようになるんです。歌詞の英単語を覚えてスペリングがどうかということではなくて、ちゃんと英語らしく英語を歌えるようになるということがまずは大切だと思いますし、実際にできた時の生徒さんのキラキラした顔は素晴らしいです。

この9月からスタートさせた取り組みで、今補食として、パンを配っています。こういった給食(補食)の問題は公立でも自主でもやっぱり出てきます。自主では17時ぐらいからスタートして、21時ぐらいまで授業です。当然、お腹が空きますよね。大体うちでは70個用意します。つまり常に70名ぐらい来られているということです。しかし1個100円でも、70名分だと7000円になり、諸々を入れると1万円、週一回の授業で月に4万円、年間48万円くらいになります。積もればかなりの金額になります。スタッフさんから月会費500円を頂いていますが、計算したら4回全部参加されると、うちに残る会費は100円しかない、どうしたらいいのだろうと。その分、私も色々なところに行かせて頂いて寄付をお願いし、企業を回って、経営者の方になんとかご支援をいただけないかとお願いをしているところです。

「次世代も育てたい、育てなくては!」ということで、地元の高校と連携して、ボランティアとしてお越し頂いています。

高校生ボランティアの中には、英語のスピーチコンテストで、優秀な成績をおさめられたり、法務省の人権作文コンクールで総理大臣賞を取ったという生徒さんも現れました。また、ボランティアアワードというコンクールでは、ブロック賞など受賞されています。あとぜひ「夜間中学 岡山」と検索して調べて頂けたらと思います。

岡山県教委が2016年末から2017年のはじめにかけて、ニーズ調査を実施しました。

2ヶ月調査をしましたが、「23件の問い合わせと5件の学びたいという方がいた」と発表しました。この調査を受けて、「今すぐに夜間中学校を設置する条件はない」というようなことを言っています。私たちは公立の夜間中学設置も求めています。未就学者が多くいる中で、本当に県教委の決定は正しかったのか、甚だ疑問です。昨年度本当に大変な中で、岡山市の教育委員会と協働事業でニーズ調査を行いました。私たちが関わるならば、生活に密着したところでニーズ調査をやりたいということで、スーパー、コンビニ、クリニックにアンケートを設置し、英語、韓国語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語など様々な言語のアンケートを作成しました。

調査結果は、アンケート回収の約4割が夜間中学で学びたいというものであった。卒業資格を取りたい、中学校の勉強の学び直しがしたい、という結果が浮き彫りになりました。



私たちは岡山に夜間中学校をつくる会なんです、「岡山市に公立夜間中学校を求める市民の会」というものがあります。私たちの会とは協調関係にありながら活動してくださっています。ここは会長さんが弁護士さんであったり、教員のOBさんだったり、色んな方が集まり行政交渉を中心に活動されています。

市民、議員機運を高めたということで馳浩さんを岡山に招きました。この写真の左は瀬戸内市長、それから元外務大臣の逢沢一郎衆議院議員、色んな方が応援に駆けつけてくださいます。教育機会確保法は、超党派の議員立法で成立しました。立憲民主党の代表の枝野さんにも夜間中学校の話をして頂きました。枝野さんは、「できるだけ見る政治はダメ、生きるために学びの機会が必要」という言葉に感銘を受けてくださり、党内で議論する、とってくださいました。またこの公明党の国会議員さんも実際に教室を訪問され、夜間中学校の重要性を再確認されました。



岡山自主夜間中学校を案内する高校生ボランティア

今年9月には、ドキュメンタリー映画「こんばんはII」森康行監督、山田洋次監督の映画「学校」のモデルの一人である見城先生等を岡山にお呼びして、広く夜間中学について、多くの方に知って頂く機会を企画しました。

「公立」と「自主」の夜間中学校は、自転車の両輪のようなものです。どちらかがあればいい、というものではありません。学校教育として、社会教育として、それぞれが機能すべきだと思います。

最後に、この話をすると胸が詰まるんですけど。ある生徒さんが、知り合いに、「恥ずかしい学校にお前は行っているんだな」と言われました。何年も何十年も、学ぶことができずに、苦しい思いをされている方が、いまだに、苦しめられている。恥ずかしい学校と言われるということは、まだまだ夜間中学校のことがきちんと理解されていない。私たちは、夜間中学校をつくるだけではダメなんです。みんなにこういう学校が必要だということを言わなきゃダメなんです。昨日工藤さんが言われました。(工藤さんは)その情熱はどこから来るのかと質問を受けて、困った。私も困ります。情熱でやってるのではないですよ。目立ちたいからやっているわけではない。必要だから、誰もやらないからやってるんです。

生徒さんは長いこと置き去りにされてたんですよ。見てください。1940年から60年代に誰が夜間中学校に行っていましたか、10代の子もたちですよ。オモニですよ。70年代に中国と国交正常化して残留婦人や孤児がたくさん来たんじゃないですか。80年代には登校拒否と言われる子どもたちがたくさん現れ、後の形式卒業になっていった。90年代には外国人労働者が急増した。日本に来たけど、十分な教育を受けることができなかった。先ほど田巻先生が言われたように、なんで刑務所に行かなきゃいけないんですか、少年院に行かなきゃいけないんですか。私たちは知ってたんですよ、そういう人たちがいたことを。だから情熱じゃないんです。我々一人ひとりがその時代、時代に置き去りにしてきたんです。取り残してきたんです。夜間中学校は、その時代、時代を映す鏡と言われます。私もしんどいですよ。よく言われます。昼間の先生も大変なのに、先生と夜間中学校の運営をよく続けられます

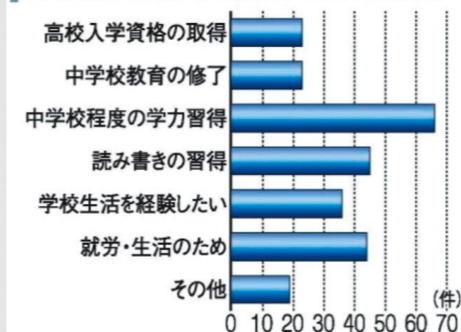
### 公立夜間中学、4割が前向き回答 岡山市教委の市民アンケート

2020年01月30日 19時21分 更新

夜間中学を知らせたい人がいる、または自身が学びたいと思うか(複数回答・件)

身近にいる	103
思いつく人がいる/場所(団体・職場など)がある	100
自分が学んでみたい	143
まわりにもいないし、自分も学びたいとは思わない	478
無回答	34

「学んでみたい」とアンケートで答えた人が夜間中学に期待すること(複数回答)



ねって。そりゃ、早朝から深夜まで働き詰めです。生徒さんが増えたら生徒さんの悩みを聞いて、スタッフさんが増えたらスタッフさんの困り事を聞いて。

今日ここにお集まりして頂いている方は、必ずそういう私と同じ気持ちを持ちながら、大変な困難もあるけれど、踏ん張っている方だと思います。これからも一緒に頑張っていきましょう。誰一人も取り残さない、置き去りにしない教育を求めて。ありがとうございました。

公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える@宇都宮大学国際学部グループ

## 岡山自主夜間中学校

一般社団法人岡山に夜間中学校をつくる会  
理事長 城之内 庸仁  
noby1009@gmail.com

## 岡山自主夜間中学校

設立：2017年4月

生徒数：221名

スタッフ数：194名

(2020年10月現在)

## 岡山自主夜間中学校

小学生から80代  
不登校  
形式卒業者  
未就学者  
在日コリアン  
外国籍等のニューカマー(新渡日)

様々な人が学ぶ

### 岡山自主夜間中学で一緒に勉強しませんか?

【会場】岡山国際交流センター 6F (交流プラザ)  
岡山国際交流センター(西口)徒歩5分

【日時】第2・第4土曜 18:00~21:00 いづれでもOK

【対象】岡山県在住の中学生以上の方です。岡山に在住する外国人労働者の方でもOK

【学費・教材は無料です】  
教材は先着1シートだけ  
授業は無料で受けられます

- ・前らかの事情があり、義務教育を修了できなかった
- ・中学校を卒業したけれど、学び直したい
- ・日本で生活する外国籍の方
- ・不登校の方、不登校だった

岡山自主夜間中学の特徴

- 一人ひとりの状況に合わせた個別指導です。
- 文学の読み書きや小学校の学習内容も学べます。
- 校外授業や文化活動もあります。

岡山に夜間中学校をつくる会

TEL: 090-2862-4400 城之内 庸仁  
noby1009@gmail.com

日本で識字調査 なぜいま

70年前の調査が最後に背景に何が?

NHK「NEWS7」全国版

私たちは「日本には読み書きできない人はいない」と思っているが、たくさんいると思う

城之内 庸仁さん  
岡山自主夜間中学

7 NEWS 年報 7:16

## 岡山県未就学者 1306人



全国小中学校不登校の児童生徒数  
**18万人以上**  
「90日以上欠席」は、小・中学校  
7万人以上

外国籍2万人 小中不登学か  
文科省調査 各教委も把握不十分

産経新聞 2019年9月28日



命続く限り学びたい  
娘の参考書で念願の進学



次世代も育てたい

岡山自主夜間中学校



学ぶことは生きること  
岡山自主夜間中学 開設3年半

有志ら支え 全国有数規模に

「夜間中学」をご存じですか？

23件の取り合わせと5件の学びたい方  
「すぐに夜間中学を設置する状況にない」

学び直しのニーズを調べるためのアンケートを実施しています

公立を求める  
アンケートとヒアリング  
スーパー、コンビニ、クリニックなど  
英語、ハングル、ポルトガル語、中国語、ベトナム語

070-495-4448

岡山自主夜間中学校  
宿泊研修  
in  
国立吉備青少年自然の家

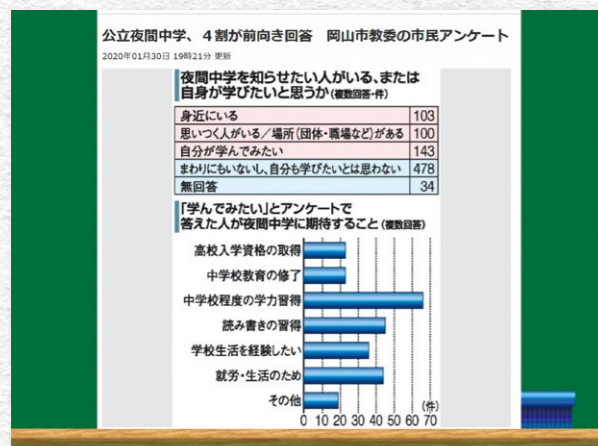


夜間中学を知っていますか？

見本

810  
回答





岡山市に公立夜間中学を求める市民の会

市民・議員・機運を高める



県内に公立夜間中必要  
岡山でシノボ 元教員ら現状訴え

県内にまだない公立夜間中の開設を目指す。現状や課題を話し、希望や不安を話し、岡山県内でも公立夜間中を開設する。岡山県内でも公立夜間中を開設する。岡山県内でも公立夜間中を開設する。

山陽新聞 2020年9月27日朝刊(全県版)



忘れられない言葉

「棺桶に卒業証書をいれたい」

「役所でみじめだった...。」

「人間のクズ」



## 仙台自主夜間中学

2014年7月、「仙台自主夜間中学」の活動母体兼支援組織である「仙台に夜間中学をつくり育てる会」を立ち上げ、同年9月、夜間中学を描いたドキュメント映画『こんばんは』の上映会を仙台市内2カ所で開催、100名を超える方が鑑賞しました。

2014年10月10日、映画を鑑賞した方の中から申し出てくれた11名で、第1回事前研修会を開催。夜間中学を進めるためにスタッフの基本姿勢として「過去にとらわれず、一緒に学んでいこう!」を確認しました。

2014年11月4日、第2回スタッフ研修会兼開講準備会を開催。研修会では東京都夜間中学元教師・関本保孝氏から話をいただきました。そして、「仙台自主夜間中学」として、昼間部、夜間部ともに2014年11月18日に開講することを全員一致で決めました。

当日は、「仙台に夜間中学をつくり育てる会」の総会も開催し、会則は原案通り承認されました。特徴は公立夜間中学校設立運動の項目を入れていないことです。このことは2016年2月6日のスタッフ会議においても参加者全員で確認しています。

2014年11月18日、「仙台自主夜間中学」昼間部2名、夜間部2名合計4名の学習者さんたちで開講しました(以上、『仙台自主夜間中学 開講5年間のあゆみと記念講演会報告書』『仙台に自主夜間中学をつくり育てる会2020年2月19日発行、2頁』)

### ○中澤八榮「仙台自主夜間中学が目指す学びとは」

仙台自主夜間中学の中澤です。私自身、8月9月と入院し、その病気がまだ完治していないので、主治医から遠くへ行くことを自粛するように指示されましたので、オンラインでの報告にすることをご了解ください。

それでは、「仙台自主夜間中学が目指す学びとは」というテーマで、現状を織り交ぜながら、これからの学びの方向について報告いたします。

仙台自主夜間中学は、小中学校時代の勉強が不十分で、現在生活に困っている人が基礎教科の学び直しを希望する人の学習の場として、2014年の11月に開講しました。6年経過した現在では、生きるための学びの場であり、誰でも、いつでも、楽しく学べる場になっており、今後もそれを継続していきたいと思っています。

最初に、どこの自主夜間中学も同じですが、仙台自主夜間中学には様々な境遇・経歴を持っている学習者が集い、学習者を受け入れております。一人目が義務教育未修了者です。具体的な例でお話しすると、国民学校高等科を修了した92歳の女性があります。その人が、昨年私に対して高校に進学したいと相談にいられました。改めて本人の学歴を調べてみたら、現在の学校教育法では中学校卒業とならない国民学校高等科修了で、高校受験に対して色々苦労しました。札幌遠友塾の工藤さんにも相談したこともあります。本人は一旦高校進学を諦めようとしたのですが、それでも「高校で勉強をしたい」という熱い思いを持ち続けた結果、美田園高校に入学することが出来ました。その新聞記事が資料1のとおりです。本人は、今コロナの関係でスクーリングは行けていませんが、2回のスクーリングに行った結果、「生きてよかった」と言っております。

二人目が、家庭の事情や病気等で小中学校に十分通えなかった人たちです。それから三人目が障害を持っているために支援学級また



これは3周年を記念して作成したパンフレットです。表紙のフクロは森の博士と言われており、この3歳児のフクロ「ホッホー君」は将来森の博士になると、ノートと鉛筆を持って伊達正宗の三日月に乗って仙台自主夜間中学に来る姿を描いています。表紙の樹木は、仙台市の街路樹のヒノキで、パンフレットの中には伊達正宗や仙台市地下鉄東西線等も描かれています。



は特別支援学校に通学していましたが、基礎教科の学習が不十分だった人です。12月2日の仙台自主夜間中学の授業に、宮城県内の支援学校の先生が見学にきました。その時も自分のところでは基礎教科の学習は不十分だということをお話していました。四人目は小中学校を卒業しても基礎学力が不十分なために学び直しをしたいと思っている人。五人目は不登校・ひきこもりで学校にあまり行っていなかった人、六人目は現在学校に行けていない人、いわゆる不登校中学生です。

次のページの資料2に示していますが、宮城県は4年間不登校全国ワースト1という状況で、仙台市も政令指定都市で三番目に不登校中学生が多い状況になっております。こういう状況から、五人目の不登校で中学校に行っていなかった人。それから六人目の現役の不登校中学生等が、これからも仙台自主夜間中学の門をたたく可能性は非常に多くなると考えています。具体的に、11月26日の授業に、不登校だった16歳の人が見学方々相談に来ました。

このような方々が集まっている仙台自主夜間中学ですが、その学習者のニーズは多様です。私はそのニーズを大きく3つに分けることができるだろうと考えています。

1つ目が、学力を身につけてこの社会で一人前の誇りと自信を持っていきながら社会性を培う、基礎教科の学びを必要としている人のグループです。仙台自主夜間中学には現在50名の学習者がおりますが、その1グループの人は34名ほどいます。そのうちの一人が中学校卒の男性43歳のTKさんです。その方が「勉強がんばります。さんすうとくごがんばります。たのしくがんばります」という作文を書いています。この方は現在、この作文に書いたように、算数と国語の勉強を楽しくやっております。この方一人に対して、スタッフ3名が丁寧に寄り添っています。

2つ目が、自分の子どもの勉強をみてやるために基礎教科の学び直しを必要とする人のグループです。このグループには、現在2名います。3つ目が、高校進学等の具体的な目標を達成するための学び直しを希望する人のグループです。現在、仙台自主夜間中学には、将来高校へ行ってみたいという願望を含めて14名ほどいます。仙台自主夜間中学で学んで、高校に進学した不登校中学生の「卒業」という作文がこれです。不登校中学生が高校に進学して1年生の夏休みの宿題として、自分の出身中学校に訪問して、その感想文を書くという課題があり、この高校生は卒業証書もらった中学校ではなくて仙台自主夜間中学を出身中学校であると、私の方に訪問してきました。それで私が色々話をしたという経緯があります。

このような人たちが集まっている学び直しの場の基本的な考えとして、学習者の皆さんのニーズ及び学習レベルを可能な限り把握し、併せて最初に希望教科等を聞いて学習を始めるようにしています。1つ目は、基礎学力が不足していると認めている学習者については、その原因を可能な限り探って、学ぶことの楽しさを実感できるようにしています。場合によっては、中学校以前の内容、いわゆる小学校の内容も含めて学習することもあります。2つ目、高校進学等の具体的な目標を持つ学習者に対しては、その目標達成のために克服すべき課題を丁寧に洗い出して、計画的な指導を行うことを考えています。現状においては、学習者とスタッフとの間で個々の学習を進めていますが、将来的には統一したカリキュラム等も作ることも考えていかなければならないと考えています。

続いて、通常の授業の基本的な考えとして仙台自主夜間中学では、最初から昼間部と夜間部の二部制の授業を行っています。仙台は冬の寒さが厳しくて雪も降りますから、夜間部に高齢者の方が通うことができないだろうと考え、昼間部を設けています。現在60歳以上の高齢女性のほとんどは昼間部に通ってきているという状況です。通常の授業の形態はマンツーマン制を原則としていますが、学習者のニーズによって可能な場合はグループ学習を行っています。昼間部では、英語・数学、国語等についてそれぞれ二グループで学習を行っています。また、仙台自主夜間中学の最大の特徴である「言葉の時間」は、授業を始める前に毎回一斉授業で行っています。国語は全ての科目の基礎だと言われておりますので、「言葉の時間」として国語の基本を習得することによって他の科目の理解が進むだろうと考えて、2015年4月から毎回15分間の一斉授業を行っています。

次に教材ですが、これは学習者のニーズ及びレベルに応じた教材を活用しております。現行の中学校教科書を基に必要に応じてスタッフ自ら作成の教材を使用しているケースが非常に多いです。それから、就学期間は特に定めませんが、概ね中学校の基礎教科を習得したと認められる時までとしています。学習者の意向を尊重しております。ただ、2018年度から中学校課程を修了した方については修了書を授与するようになりました。現在までに4名の方に

授与しました。それから学習者の学習進捗状況については、2015年4月から使用している「学習の記録カード」を活用していきたいと考えています。

講師のスタッフは、全員ボランティアで手伝ってもらい、教員の資格を条件としていません。現在38名のボランティア講師がおります。小中学校高校の元教師、現役の小学校・高校の先生、それから元公務員・元会社員等と様々です。大学生にも手伝ってもらっています。東北大学の学生、山形大学の学生で、多いときには7名の大学生に手伝ってもらっていました。12月2日の授業の時に新たに東北大学の学生2名が手伝いに駆けつけて来てくれました。他に高校生もいましたが、今はコロナの関係で私の方から辞退を申し出しました。多い時には7名の高校生が手伝いに来てくれました。そのうちの一人が早々と東北大学に合格し、来週の授業から手伝いに来てくれると言ってくれましたが、私の方が今のコロナの関係でどうしたらいいのか逆に困っているという状況です。

続いて仙台自主夜間中学の期待する成果と取り組みについて述べていきます。学習者の基礎学力が不十分でも、日常生活に不自由を感じないような形で手伝っていくことが一番と考えています。その次に学習者が生きるために中学校の基礎的な教科を学んで「自信を取り戻す」、「生きがいを発見する」ことにつなげ、幸せな人生を歩んでいけるように丁寧に手伝ってあげることが大切だと思っています。さらに、仙台自主夜間中学は福祉的な役割として、社会的自立の手伝いと社会的な居場所を提供することを目指しております。

現在までの成果としましては、不登校中学生が在籍中学校に復学を果たしたケース、長期間ひきこもりの方が一歩ずつ前に歩みだしたというケースがあります。それから、高校に進学した人が先ほどの方も含めて7名おります。宮城県の通信制高校が4名、定時制高校が2名、私立通信制高校が1名です。

次に毎年「文集めだか」を自主編集・発行しています。現在までに5号発行しました。これからも「文集めだか」は発行していきたいと思っています。文集の1号、2号までの学習者は匿名で寄稿していましたが、3号からは実名で寄稿してくれるようになりました。これは、学習者の皆さんが自信をつけた表れだという解釈をしています。

そして毎年、大学生に夜間中学を紹介して学ぶ大切さを考える機会を提供しています。東北大学、山形大学、東北学院大学で行いましたが、東北大学と山形大学については毎年授業の中で夜間中学を取り上げてくれて、その講師を務めています。それから英語を学んで、街の英語の看板を見てわかるようになって、街に出かけることが楽しくなったという方もおります。これは先ほど言いましたように、社会的な自立の1つの形だと理解をしています。

また、今まで3回、JICAの研修団の視察先に選定され、発展途上国のノンフォーマル教育推進に貢献しています。研修団はアフガニスタン、パキスタン、ミャンマー、フィジー、レソト、モルティブ、パラオ、スリランカ、サモア等、日本の文部科学省にあたるどころの教育担当の人たちです。その中でパラオ、アフガニスタン、レソトの研修員は、自国でも「学習の記録カード」を取り入れたいと言っていました。

今後の方向としては、将来、仙台市内に設置される公立夜間中学校と情報交換をしてお互いに切磋琢磨して共存していくことを目指しています。仙台自主夜間中学は、仙台市が掲げている「公立夜間中学校」、「フリースクール」、と「仙台自主夜間中学」の連携によって行われる「学びのセーフティーネットワーク」の構築実現についての役割を担っていきたいと考えています。

以上で報告を終わります。ありがとうございました



文集めだか



## 「仙台自主夜間中学が目指す学びとは」

宇都宮イベント12月6日

「仙台自主夜間中学」 中澤 八榮

「仙台自主夜間中学」は基礎教科の学び直しを希望する人の学習の場であり、生きるための学びの場でもある。誰でも、いつでも、楽しく学べる場を提供するところを目指していく。

### 1. 様々な境遇、経歴を持っている学習希望者を受け入れていく

- (1) 義務教育未修了者  
(具体例)現在の学習者 昭和2年生まれ92才の女性 国民学校高等科修了<資料1>
- (2) 家庭の事情で小・中学校に通学できなかった人
- (3) 病気を持っているために小・中学校に十分通学できなかった人
- (4) 障害を持っているために支援学級また特別支援学校に通学し、基礎教科の学習が不十分だった人
- (5) 小・中学校を卒業していても基礎学力が不十分のために学び直しをしたいと思います人
- (6) 不登校、ひきこもりで学校にあまり行ってなかった人
- (7) 不登校、ひきこもりで学校にあまり行ってない人(不登校中学生)資料2が示している通り宮城県、仙台市の中学生の不登校生出現率は全国においてファーストであるために(6)(7)の学習希望者が多くになると予想される。<資料2>

### 2. 多様な学習者のニーズ

- (1) 学力を身につけて、この社会で一人前の誇りと自信を持っていく、社会性を培う基礎学力の学びを必要としている人  
(現在の人数 18名)  
(現在の学習者の例)TKさん(男性43歳 中学校卒)  
僕の夢「勉強がんばります。さんすうとこくごがんばります。たのしくがんばります。」
- (2) 自分の子どもの勉強の面倒をみてやる基礎学力の学びを希望する人 (現在の人数2名)
- (3) 高校進学等の具体的な目標を達成するための学びを希望する人 (現在の人数14名)
- (例)過去に学んだ不登校中学生(16歳)高校進学

「卒業」 私は長い間不登校で、高校に進学もしなかったですが、自主夜間中学に通い、数学や英語を勉強したり、先生や生徒の方とのコミュニケーションをとる事で、自分にも自信が付き、高校に進学する勇気が湧きました。そして、無事合格通知を受け取ることができ、4月から通信高校に通うことになりました。これらは全て、自主夜間中学のおかげです。ありがとうございました。

- (4) もっと基礎学科の知識を身につけ、生活向上をはかる、いわゆる生涯学習的な学びを希望する人

「仙台自主夜間中学」の存在を新聞記事で知り、2015年12月から夜間中学から同高に進学した70代女性の体験談を聞き、高校入学をひそかに夢見るようになった。19年春、運営団体の代表が中沢八榮さん(76)に「私も高校進学したい」と打ち明けた。期待していた入学は新型コロナウイルスの影響で中止。それでも、通間は自宅の自主学習がメイン。真新しい教科書を手にして、学校に提出する課題に取り組み充実の日々だ。子どもたちも、学校に行けない日々が続く。家の中でできることはある。何でもしっかりやりなさい。学びに貪欲な大先輩が優しくエールを送る。

92歳で念願の高校入学

「仙台自主夜間中学」の存在を新聞記事で知り、2015年12月から夜間中学から同高に進学した70代女性の体験談を聞き、高校入学をひそかに夢見るようになった。19年春、運営団体の代表が中沢八榮さん(76)に「私も高校進学したい」と打ち明けた。期待していた入学は新型コロナウイルスの影響で中止。それでも、通間は自宅の自主学習がメイン。真新しい教科書を手にして、学校に提出する課題に取り組み充実の日々だ。子どもたちも、学校に行けない日々が続く。家の中でできることはある。何でもしっかりやりなさい。学びに貪欲な大先輩が優しくエールを送る。

<資料1>

不登校宮城ファースト 19年度震災影響? 4年連続

文科省が毎日公表 問題行動未確認児童で、東北は震災発生後、1000人当り4年連続で全国最悪となった。いじめ認知件数は増加傾向で、仙台市は4割に増えた。2月17日、仙台市教育委員会が発表した。東北6県(仙台市)のいじめ、不登校、暴力行為の調査結果は、仙台市が最も深刻な状況にある。小中高特別支援学校のいじめ認知件数は前年度比7.7%増。小中学校の不登校は前年度比1.7%増、小中高の暴力行為は前年度比1.7%増、小中高の暴力行為は前年度比1.7%増。

<資料2>

### 3. 学習の指導基本的考え

- 学習者のニーズ及び学習レベルを可能な限り把握し、併せて最初に希望教科等を聞いて学習が始まる。
- (1) 基礎学力不足が生じていると認められる学習者については、その原因を可能な限り探り、学ぶことの楽しさを実感できるように指導する。場合によっては、中学校以前の内容を含めて学習することもある。
  - (2) 高校進学等の具体的な目標を持つ学習者に対しては、その目標達成のために克服すべき課題を丁寧に洗い出し、計画的な指導を行うことも考える。
  - (3) 生涯学習的なニーズの人には中学校基礎知識を付与する。

### 4. 通常授業の基本的考え

- (1) 今後も昼間部と夜間部の二部制の授業を行う。
- (2) 通常授業の形態は対一を原則とするが、学習者のニーズによって可能な場合はグループ学習を行う。
- (3) 「言葉の時間」(毎回一斉授業)を今後も実施していく。

### 5. 教材

学習者のニーズ及びレベルに応じた教材を活用する。現行中学校教科書を基に必要に応じてスタッフ自ら作成の教材を使用した授業を行うこともある。

### 6. 就学期間

中学校基礎教科を概ね習得したと認められる時までとするが、学習者の意向を尊重することとし特段の設定をしない。  
○修了証授与-中学校基礎教科を修了と思われる学習者に対して年度末に修了証を授与する。(2018年度より実施現在まで4名授与)

### 7. 学習者の学習進捗状況の把握

現在使用している「学習の記録カード」を活用する。

### 8. スタッフ(講師)

全員ボランティアで手伝ってもらおう。教員資格を条件としない。  
○現在38名(小・中・高校の元教師、現役小学校、高校教師、元公務員、元会社員、会社員、大学生、高校生)

### 9. 期待する成果と取り組み

- (1) 学習者が基礎学力の不十分で、日常生活に不自由を感じないように手伝っていく。
- (2) 学習者が生きるために中学校の基礎的な教科を学んで「自信を取り戻す」「生きがい発見」につなげ、幸せな人生を歩んでいくように手伝っていく。
- (3) また、「仙台自主夜間中学」は社会的自立の手伝いと社会的な居場所を提供することも目指していく。
- (4) 毎年「文集めだか」を自主編集・発行していく。

(現在までの主な成果)

- ① 不登校中学生が在籍中学校に復学
- ② 長期間ひきこもりだった人が一歩ずつ前に歩みだしている。
- ③ 高校進学した人が7名いる。  
・県立通信制高校4名 定時制高校2名 私立通信制高校1名
- ④ 「英語」を学んで、街の英語の看板や案内を見てわかるようになり、街に出掛けるのが楽しくなっている。
- ⑤ 「文集めだか」を毎年自主編集・発行、第6号まで発行している。文集第3号から学習者は実名で寄稿している。
- ⑥ 毎年、大学生に「夜間中学」を紹介し、学ぶ大切さを考える機会を提供している。
- ⑦ 3回、研修団の視察先に選定され、発展途上国のノンフォーマル教育推進に貢献している。

### 10. 今後の方向

- (1) 将来、仙台市内に設立される公立夜間中学校と情報交換し、お互いに切磋琢磨して共存していく。
- (2) 「仙台自主夜間中学」は「公立夜間中学校」「フリースクール」と一緒に、仙台市長が掲げている「学びのセーフティネットワーク」の構築の実現に向け役割を担っていく。



## 夜間中学校と教育を考える会

夜間中学校と教育を語る会(会長 浦川文秀、以下、語る会)は、「公立・自主夜間中学の灯を守り育て、夜間中学校を発展させていくとともに、広く教育のあり方を考え、交流を深めていくこと」を目的に、夜間中学の卒業生、教職経験者、夜間中学を支援する市民などが集まり、1996年より活動している市民団体である。語る会は、2020年4月27日付で、東京都知事と東京都教育委員会教育長宛てに、「新型コロナウイルス感染拡大の影響下で都内公立中学校夜間学級の教育を守り発展させるための要望書」を提出している(資料1)。

夜間中学関係者によると、夜間中学生には経済的に困難なものが少なくない。遠距離通学では交通費が負担となる。そして、就学援助を受けられない自治体もある。コロナ禍による仕事の減少や失業は、特に非正規雇用の外国人を直撃する。こうした事情があるなかで、コロナ禍は夜間中学生の経済事情を一層悪化させることが懸念される。この点に関し、諸条件整備に関する要望事項の1つは、就学援助に関するものである。



紙芝居のような形で「学ぶことはどういふことか」について語る澤井留里

### ○澤井留里

第一に、学ぶということはどういふことか、それは夜間中学とどう関わるのかこのことを中心に話します。その後、第二に、私たちの日本の社会では、教育はどのように捉えられてきたか、教育という言葉の誤訳について話します。そして第三に、これから自主夜間中学を展開していくために大切だと思うことについての私の意見と続けます。これらを通して、「自主夜間中学がめざす学びとは」というテーマに迫っていけたらと思います。

これからお話することの全体は、故大田堯先生のご著書から学んだことです。今回は特に大田先生98歳の2016年9月に、岡山で非常にユニークな精神医療の実践をされていた精神科医の山本正知さんと対談されたことを交えた「ひとなる」(藤原書店)という本から学んだことです。すばらしい本ですので、ぜひ皆さんお読みになってください。

まず、はじめに、私自身のことをお話ししなければならないと思います。私は小学校の音楽専科教員として教職生活をスタートして、そこから昼の中学校へ移り、そして夜間中学へと続けて41年間、東京で仕事をしてきました。41年間のちょうど半分が昼の小中学校、後の半分は定年退職後の講師も含めて、夜間中学で過ごしました。

最初から教師になりたいと思っていたわけではなく、全ての始まりは音楽が大好きで、音楽にしがみついていたという思いがあったというだけです。モチベーションを保つために、養護学校での音楽の授業を忘れない、という昨日の大西さんのお話に心動かされました。私は音楽が好きというだけで、成り行きで先生になりました。

でも、先生になってみたら、それまで以上に音楽が大好きになったんです。子どもたちの歌声に目が覚めたように感動しました。成り行きで先生になってしまったけれど、なってみたら本当に夢中になりました。振り返ってみたら、小学校から中学校へ、さらに夜間中学へと教師としての歩みを続けていました。その41年間のお話をすることはできません。でも、この後のお話につなげるために付け加えるなら、なぜ昼の中学校から夜間中学に行ったのかということのお話だけはしようと思います。それは、学校とはどういうところなのか、教師の仕事とはなんなのか、ということに真剣に悩んだからでした。不登校・登校拒否の子どもたちとその保護者特にお母さんたちとの出会い、テストの成績で輪切りにして高校進学につなげる「進路指導」、生活指導と称する管理などの問題に目をつぶって仕事を続けることができなくなりました。

毎日毎日12時間労働はざらで、必死に働いても、一生懸命やればやるほど、自分が学校という大きいシステムの歯車の一つでしかない、ということに気づくばかりです。一人だけ良心的であるなどということではできません。学校とはどんなところなのか、教師の仕事とはどんなものなのか、一から学び直すか、さもなければやめるしかないと思い、たどり着いた

のが夜間中学でした。

さて、それでは夜間中学にやってきて、どうなったか、本当に一言でいうなら、私が夜間中学にきてコペルニクス的転回として自分の認識を変えさせられたことは、「人間にとって学ぶことは喜びなのだ」ということです。それまでは私自身の子どもの頃からの体験も含めて、勉強することは辛い、苦しいことだ、でも、将来のために我慢してやるもの、と思って来ました。しかし夜間中学にきたら生徒さんたちが本当にうれしそうに勉強するのは、これは何なんだ!本当に台風が来ても大雪でも学校に来ちゃうんですよ。

それではここからが本題になります。なぜ人間にとって学ぶ事は喜びなのか、考えてみましょう。大田堯先生は、学ぶということは人間だけでなく、全ての生きものの生命の本質と関わっているのだと言っています。

「生き物は変わるものだということ、その根拠は、一人一人がまず違うところにあるとわかりました。みんな違っていることによって、それぞれが自己中心になるという恐れはありますが、いきものは本来自己中心なのだわかりました。しかし、それにも関わらず、他者に依存しなくては生きられない存在であることも事実なのです。いきものはどうしても関わらないと生きられません。違うことを前提に関わることで生きる。」

違うというのは自己中心、関わるということは外に依存する他者依存、関心が内と外の逆方向に自分の内面で常に行っている。これは矛盾ですよ。この矛盾を解決するために、日本の哲学では「人間は主体と客体の弁償法的統一である」と言っていますが、私はそれを「折り合いをつける」、または自然科学で言う食事や呼吸と同じように、内外の矛盾を「代謝」によって折り合いをつけて生き続けると言っています。折り合いをつける瞬間が、変わると言う状態になるでしょう。絶えず内と外との矛盾する力に悩みながら、それに折り合いをつけて変わっていく。生き物はこれを生涯続けている。それはつまり学習を重ねることでもあるのです。」

全ての生きものは、1つ1つ違う、つまり自己中心でありながら、自己だけでは生きることができなくて常に関わり持っていないかなくてはならない、その矛盾に<折り合いをつけて>自分を変えていく、そのことが学ぶということなんだとおっしゃっています。大田先生のお宅で月一回開かれていたサークルに出かけていくと、お家の裏に大きなケヤキの木があるので。先生がその木をさして、このケヤキも自分中心に命を生きるために、日の光や大気、雨などの環境、つまり他者との関係の中で折り合いをつけて、葉を茂らせ、枝や幹を伸ばし地中に根を張って変わり続けています、と話してくださいました。学ぶということは、命の本質、生きる、ということに関わることなんだということを感じながら心に刻みました。皆さんご覧になったでしょう、夜間中学のドキュメンタリー「こんばんはII」の冒頭、戒香里菜さんが「学ぶことは生き延びることです」と言います。あの言葉は美辞麗句ではなく、全く命ある全てのいきものにつながる大事な言葉なんだと思います。大田先生はこうも言われています。

「生命は、流れ続ける川のような、自然の循環系の機能そのものと言うべきもので、動的平衡とも言われていますから、学習というのは、流れていく人生そのもの、新しい問題になって問いが続いていきますから、生涯にわたって未完成ということなんです。」

大田先生はそのことを、ちがう、かわる、かわる、という3つの言葉でわかりやすく説明してくださいました。学ぶということを、そういう壮大なスケールで捉えるということは、公立であろうが自主であろうが夜間中学を考える上で、非常に大切だろうと思います。学ぶことをすぐに今ある学校というシステムとだけ狭く考えてしまうのではなく、命の本質と関わるものなんだということを押さえて広い視野で考えていきたいと思っています。

さらに、人間にとって学ぶということがどんなことか、ということを考える上で大切なことがあります。それは、人間は他の動物に比べて非常に未熟なものとして生まれてきて、その後生きていくために必要なもの、道具や機械や知識など一切の文化を獲得して行くということです。私も二人の子どもを育ててきましたが、まったく人間の赤ん坊は生まれただては何一つできません。目も開かない、体の向きさえ変えることさえできない。本当に無力です。生まれ出た後で学ぶこと



なしに人間になって行く、成長することはできないのです。大田先生はそのことを、社会的文化的胎盤という言葉で説明されて、ある文化人類学者の言葉を紹介しています。「人間は身体外に器官を備えた動物である」。私たち人間は寒さに負けないホッキョクグマのような毛皮もなければ、餌となる動物を襲う鋭い牙も爪も持ちません。その代わりに、衣服や狩りの道具などを「体の外に」備えています。言葉や知識なども含めて、こうした文化を持たなければ私たち人間は1日も生きて行くことはできない、と言っても大げさではない。

人が人になって行くために、学ぶことがどうしても必要です。それは読み書き計算などができないと生活で不自由だということだけではない。自分が生きているということの確信が持てないことにもなってしまうのです。私たちは自分に「お前は生きていいい」などといちいち考えて生活してはいませんね。だけれども、それは無意識のうちに心の中の土台として持っているのです。しかし、戦争や貧困、家庭の事情など、なんらかの理由で、学ぶことができなかった人たちは、その心の土台が持てないという非常に苦しい状態に置かれています。

ある夜間中学生はこういう言葉でそれを表現しました。「読み書きができないと、何をすることも息苦しい」。また、「こんばんはⅡ」の中では、「何をすることも逃げ腰」という言葉もありました。「学校にいけなくなって、そこから前に進まない」という言葉もありました。

人間の学びの特質として、長い人類の歩みの中で築かれてきた文化を「身体外の器官」として身につけることなしに人間になることができない、ということがあります。言い換えれば、私たちが生きていることは、すでに過ぎ去って今はないたくさん先の先祖たちの文化が私たちに流れ込んでいるということもできますね。学ぶことができてはじめて「生きていいい」という実感を持つことができる、ということを確認しておきたいと思います。

学ぶということが、命の本質と関わるものであること、そして身体外に器官を備えた動物として、学ぶことなしに人間になれない、生きていいいという土台を持てない、ということをお話ししました。

こうしてみると、学ぶということが人権であるということがよくわかります。学習権は人権の核である、ということが改めてはっきりしてくると思います。だからこそ、全ての人に保障しなければなりません。もし保障されていない人がいたら、直ちに国や自治体は「大変申し訳なかった、今からでもぜひ学んでください」と謝って、その分の補償をする、Compensatory educationというそうです。夜間中学はまさに、その学習権の保障の場です。

さて、ここで公立と自主ということについて触れておきたい。本来保障しなければならないことができていなかったものの補償、ということについていえば、夜間中学は公教育として学習権を保障する場であると私は思います。学齢を過ぎている人の教育は、社会教育で、という考え方は、昨日の駒井先生のお話の中で、夜間中学の歴史の中で廃止勧告が出て急激に夜間中学が減ってしまったあたりでも盛んに言われてきたことです。夜間中学の関係者の中で、<社会教育路線>と批判されてきました。私も同じように考えます。

では、自主夜間中学というものは、公立の夜間中学を設置するための当面の補完の役割なのか、ということが問題になってきます。それは次にお話しすることとも関係があります。

次に、日本の社会の中で、学ぶということがどのように捉えられてきているか、ということについて、話したいと思います。大田堯先生は、「教育」という言葉は明治期のエデュケーションの誤訳だと言われます。教育の教、という字は、中国の儒教の考えの中で、上から下へ、知っているものが知らないものへ、施す、という意味であった。そして、急激に富国強兵の国づくりをするための人づくりとして、近代日本の国家建設の基本となりました。上から下へ、ですから、「教育はお上のもの」ということになります。

大日本帝国憲法では、教育の条項はない。その理由は、教育は軍事とともに、直接に天皇の勅令、勅語によるもので、人民の選んだ議会において論じて定めるものではない、とされていたからです。人民の介入を許さない、この言葉を覚えておいてください。あとでまた触れます。

それに対して、敗戦後、新しい憲法ではどう変わったか。大田先生は兵隊として戦争を経験されています。私は1945年までは臣民だった、そこから主権者になった、ということ、非常に重要なご自身の研究の基本とされていました。

今度は憲法に、ちゃんと教育の条項が入りました。26条です。

「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じてひとしく教育を受ける権利を有する。すべて国民は、法律

の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。」

教育についても、主権はひとびとにある、ここが大事です。前文に「ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」とあり、ここは強調してしすぎることはありません。

ここで、公立夜間中学と自主夜間中学、ということについての私の考えを述べます。私は、自主夜間中学というものは、今の日本社会でも根強く支配的である「教育はお上のもの」という観念を揺り動かし、変革して、教育を主権者であるひとびと、ピープルの手に取り戻す重要な意味をもつ動きをしているものだと考えます。先ほど、明治憲法下では、教育は人民の介入を許さないものだった、この言葉を覚えておいてくださいと言いました。それを、今度は教育を本当の意味で主権者のものにして行くことが求められているのではないのでしょうか。「こんばんはⅡ」の中で、4柏自主夜中の越山さんが、ここは「来るもの拒まず」です、と言って、学習者のニーズに応じて、自分たちの方がどうやったらできるか、考えて行くんだ、と言っています。当事者の学習権がまずあって、そこに夜間中学の教育実践が作られて行く、こういう関係については自主だろうが公立だろうが同じであるはずですよ。

昨日の学びの中で、公立夜間中学は税金で運営している、だから、毎日遅刻とか早退という人は入学を断っているという話がありました。税金で運営されるというのはなぜか、それは、義務教育は無償とする、ということと裏腹の関係です。もし無償でなければ、お金のために権利がある人がそれを行使できないというようなことがあってはならないからです。遅刻や早退をするのは税金の無駄遣いだというような発想とは全然違うはずですよ。

義務教育機会確保法の第3条第4号には、「(教育機会の確保等に関する行政体の施策は)義務教育を十分に受けていない者の意思を十分に尊重しつつ、その年齢又は国籍その他の置かれている事情に関わりなく、その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにする」と書かれています。本人の置かれている事情には、毎日間に合わないということも入るでしょう、その事情にかかわらず、本人の意思を十分に尊重し、極力入学してもらって、その上で学校側としてできる限りの手を打つ、というのがあるべき姿で、法律もそう求めていると思います。

最後に、コロナ禍の下にある現在、全世界が困難の中にあるとき、自主であれ公立であれ、「夜間中学なんてやっていたらいいか」という声が上がって来ると思います。それより衣食住や仕事だろう、と。栃木県にも夜間中学?そんなお金も人手もないよ、という声です。

私は、今だからこそ、学びましょう、と呼びかけます。栃木県にどうしても夜間中学が必要です。ユネスコの学習権宣言を紹介して終わりたいと思います。

## ユネスコ「学習権宣言」

～第4回ユネスコ国際成人教育会議(パリ)の宣言(1985.3.29)～

学習権を承認するか否かは、人類にとって、これまでもまして重要な課題となっている。学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し、創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手だてを得る権利であり、個人的・集団的力量を発達させる権利である。

成人教育パリ会議は、この権利の重要性を再確認する。

学習権は未来のためにとっておかれる文化的ぜいたく品ではない。それは、生存の欲求が満たされたあとに行使されるようなものではない。学習権は、人間の生存にとって不可欠な手段である。もし、世界の人々が、食糧の生産やその他の基本的人間の欲求が満たされることを望むならば、世界の人々は学習権をもたなければならない。

もし、女性も男性も、より健康な生活を営もうとするなら、彼らは学習権をもたなければならない。もし、わたしたちが戦争を避けようとするなら、平和に生きることを学び、お互いに理解し合うことを学ばねばならない。

“学習”こそはキーワードである。学習権なくしては、人間的発達はありません。学習権なくしては、農業や工業の躍進も地域の健康の増進もなく、そして、さらに学習条件の改善もないであろう。

この権利なしには、都市や農村で働く人たちの生活水準の向上もないであろう。端的にいえば、このように学習権を理



解することは、今日の人類にとって決定的に重要な諸問題を解決するために、わたしたちがなしうる最善の貢献の一つなのである。

しかし、学習権はたんなる経済発展の手段ではない。それは基本的権利の一つとしてとらえられなければならない。学習活動はあらゆる教育活動の中心に位置づけられ、人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえていくものである。

それは基本的人権の一つであり、その正当性は普遍的である。学習権は、人類の一部のものに限定されてはならない。すなわち、男性や工業国や有産階級や、学校教育を受けられる幸運な若者たちだけの、排他的特権であってはならない。

本パリ会議は、すべての国に対し、この権利を具体化し、すべての人々が効果的に それを行使するのに必要な条件をつくるように要望する。そのためには、あらゆる人的・物的資源がととのえられ、教育制度がより公正な方向で再検討され、さらにさまざまな地域で成果をあげている手段や方法が参考となろう。

わたしたちは、政府・非政府双方のあらゆる組織が、国連、ユネスコ、その他の専門機関と協力して、世界的にこの権利を実現する活動をすすめることを切望する。

エルノシア、モントリオール、東京、パリと続いたユネスコ会議で、成人教育会議の大きな前進が記されたにもかかわらず、一方には問題の規模の大きさと複雑さがあり、他方には適切な解決方法を見出す個人やグループの力量の問題があり、そのギャップはせめばめられてはいない。

1985年3月、ユネスコ本部で開かれた第4回国際成人教育会議は、現代の問題のスケールの大きさにもかかわらず、いやそれだからこそ、これまでの会議でおこなわれたアピールを繰り返しのべて、あらゆる国につきのことを要請する。すべての国は、成人教育の活動においても、サービスにおいてもたしかな発展をとげるために、大胆で想像力にみちた努力をおこなうべきである。そのことによって、女性も男性も、個人としても集団としても、その目的や条件や実施上の手順を自分たちで定めることができるようなタイプの成人教育を発展させるのに必要な、教育的・文化的・科学的・技術的蓄積を、わがものとなしうるのである。

この会議は、女性と婦人団体が貢献してきた人間関係における新しい方向づけとそのエネルギーに注目し、賛意を表明する。その独自の経験と方法は、平和や男女間の平等のような人類の未来にかかわる基本的問題を解決するための中心的な位置を占めるものである。したがって、より人間的な社会をもたらす計画のなかでの成人教育の発展に女性が参加することは、ぜひとも必要なことである。

人類の将来がどうなるか、それは誰がきめるのか。これはすべての政府・非政府組織、個人、グループが直面している問題である。これはまた、成人の教育活動に従事している人々が、そしてすべての人間が個人として、集団として、さらに人類全体として、自らの運命を自ら統御することができるようにと努力している人々が、直面している問題でもある。(当日、時間の関係で、最後までお話しすることができなかったことをお断りしておく。以上は予定してお話しできなかった部分も含めた内容である。)

員会、および東京都知事に心から敬意を表します。

私たちは、「公立・自主夜間中学の灯を守り育て、夜間中学校を発展させていくとともに、広く教育のあり方を考え、交流を深めていくこと」を目的に、夜間中学の卒業生、教職経験者、夜間中学を支援する市民などが集まり、1996年より活動している市民団体です。

現在、新型コロナウイルス感染が拡大し、殊に首都東京は感染者数も多く、これまで経験したことのない甚大な被害が各方面に渡って広がっています。都内8校の公立夜間中学も現在休校となり、学校の一日も早い開始を待っているところです。しかし、感染の拡大は続いており、都内の状況は夜間中学生にとって学びを続けていくことが不可能になってしまいそうな様相を示しています。

つきまして、以下の二点について、この特別な状況下で夜間中学について格段のご配慮、ご支援をいただきたく、ここに要望いたします。

## 記

### 1、都内夜間中学のうち、日本語学級を設置している5校の学級数を、年度はじめの生徒数で機械的に設置要綱に当てはめて削減することなく、必要な教職員数を維持してください。

外国につながる新入生の場合、諸外国の教育制度などとの関連で例年、年度途中に入学することも多く、そのため年度当初をとってみると、直前に在校生の一部が卒業し、日本語学級から一部の生徒が普通学級に進級することから、一年で最も生徒数が少ない時期に当たります。

また現在の新型コロナ感染の影響で、外国からの入国ができない状況もあり、また、在日外国人の中では職を失ったり生活困窮に陥ったりする割合が日本人市民に比べて高いと考えられ、どの学校にも新入学者数が少ない状況が見られます。日本語学級生徒数減の様々な要因のうちの最大なものと思われる新型コロナ禍が落ち着くまで、設置要綱の学級数を弾力的に運用して、現在の教育条件を維持してください。


### 2、学校再開後、夜間中学生を暖かく迎え、学びを続けていくよう励ますために、設置市区教育委員会と共に諸条件を整備してください。

#### ① 就学援助に関して、早期に給付するなど、その運用に特別の措置を図るように区市に対して指導や要請を行ってください。


例年新年度すぐに就学援助を申請しても許可が6月頃になります。仕事が減ったりなくなったりして生活が不安定な生徒が、費用を負担できず学校を続けられない事態が想定されます。在校生で昨年度に受給していた者に対しては、「みなし受給」ができるよう特別措置をしてください。また、新入生については、入学が確定し、就学援助受給のめどが立つまで、年度当初の費用納入を二ヶ月程度遅らせるなどの、特別措置をしてください。

さらに、都内の夜間中学は都内在住・在勤という条件であるため広域から通学していますが、生徒の在住自治体によっては学齢を超えていることを理由に、夜間中学生に就学援助を支給しない市があり、11箇所余りを数えま

## 夜間中学へ行こう！学ぼう！



オンライン



説明会

東京都

公立夜間中学を知っていますか？ いま、東京都には8校あります。230名あまりの人たちが、読み書き・計算などのほめから、高校受験まで、学んでいます。お年よりも若者も、日本人も外国人も、不登校でほとんど学校へ行けなかった人も、夜間中学に行きましょう。「夜間中学の灯を守り育て、発展させていくとともに、広く教育のあり方を考え、交流すること」をめざして活動している夜間中学校と教育を語る会が、全力で東京の夜間中学をおしします。コロナ禍のもと、顔を合わせられないので、オンラインで行います。ぜひご参加ください。

**日時 2021年1月9日(土) 14時～16時半**  
**会場 オンライン (ZOOM) 参加費 無料**

プログラム	
・はじめのことば	政府広報インターネットテレビ 「いまからでもまなぼう！ 公立中学校の夜間学級」
・夜間中学に入学するには	都内8校の場所、入学条件などをわかりやすくお話しします。
・夜間中学生、卒業生から	夜間中学で学んでどうだったか、実際に経験した人たちがお話しします。※チャット <休憩>
・歌と演奏「僕らの学校」	歌う夜間中学教師、和島道徳先生のギターと歌。朴元綱先生の笛でお届けします。
・先生たちから「夜間中学へのお誘い」	先生たちのリレートーク。最後は夜間中学一部、見城麻和先生のまとめ ※チャット
・朗読「花咲け出雲スピーチ大会」	記録集より 卒業生のスピーチ
・夜間中学校と教育を語る会が毎年開催しているスピーチ大会から選んで朗読します。	
・1日のまとめ	参加者と主催者で質疑、感想の交流をします。
・おわりのことば	※チャット：その場でご意見ご質問などを短い文でお寄せいただき、交流します。

**申し込み案内：**参加希望の方は、1月5日までにメールで [yakanchu15@gmail.com](mailto:yakanchu15@gmail.com) に、氏名、連絡先電話を添えてご連絡ください。折り返し参加登録フォームへのリンクをご案内します。定員60人、先着順です。

主催：夜間中学校と教育を語る会 会長 浦川文秀 <https://blog.goo.ne.jp/yachu-kyokai>  
連絡先：080-5913-8287 (庄司)

## 資料1

2020年4月27日

東京都知事 小池百合子 様  
東京都教育委員会教育長 藤田 裕司 様

新型コロナウイルス感染拡大の影響下で都内公立中学校夜間学級の教育を守り発展させるための要望書

夜間中学校と教育を語る会 会長 浦川 文秀  
〒361-0056 埼玉県行田市持田5-3-18 電話

まず何よりも義務教育未修了者の学ぶ権利を大切にして、足立区立第四中学校に二部として夜間中学の開設を1951年に認め、以来今日まで区教育委員会とともに都内8校の夜間中学の継続発展に寄与して下さっている東京都教育委



す。経済的な困難が想定される現在、同じ学校に学ぶ生徒の間に受給の不公平が生じないように、都内全域での援助実現に向け、指導・要請をしてください。

② 学習支援の他にも、母語による様々な相談にも乗ってもらえるように、支援員を各学校に派遣できるように特別措置をしてください。日本語が母語の生徒に対しては、スクールカウンセラーによる相談の充実を図ってください。

新型コロナウイルス感染拡大の下で、夜間中学生には様々な情報が届きにくく不利な状況に陥りがちです。一人一人の事情に応じた暖かくきめ細かな指導ができるために必要です。

③ WEB授業のための環境・設備充実を早急に実現してください。

緊急事態宣言下、都内の夜間中学で現在行われている休校は、夏休み以外では今までに経験したことのない長期間にわたるものです。このような中で、少しでも生徒の学習を保障するために、その手段の一つとしてWEB授業を取り入れる希望のある学校に対しては、区市教育委員会と共に早急にその実現を図ってください。

以上

## コメント

### ○横溝環

茨城大学の横溝と申します。専門は多文化関係学で、田巻先生の研究の末席に加えさせていただいております。このような機会をいただきましてどうもありがとうございます。まず皆様方のお話をうかがいまして、大きく分けて2つのキーワードがあるかなと思いました。

1つ目は「地域を巻き込む」ということ、2つ目は「温度差」でした。まずは温度差の部分についてです。田巻先生が入管のお話をされていたと思いますが、内側から見える部分と外側から見える部分の温度差というものをここで感じました。例えば、うちの大学の学生に夜間中学の話をする、みんな知らないとか、知っていても同情でしかないんですね。ここで話をされていた、ここに集まった方とそうではない、いわゆる「外」という表現はとてもおかしいんですけど、周囲の方々との温度差というものを私自身も感じます。学生が同情を感じるという部分が、まさに城之内先生がおっしゃったような「恥ずかしい学校」、何かそういった社会的弱者というものを固定化してしまうようなことにつながってしまうのではないかなと思いました。ということからも、今後、私たちがしていかなければいけないことは、周囲を巻き込む、周囲の方々に対する学びという部分を担っていくことなんじゃないかなと思います。宇都宮大学の方で自主夜間中学を開講される際、地域に支えてもらうというふうには田巻先生もおっしゃっていましたが、この「地域を巻き込む」ことが大事だと思いました。

もう一つの点、皆様方が「生徒が主役」ということをおっしゃっていましたが、宇都宮大学での夜間中学校は、できればボトムアップで作っていただきたいと思いました。やはり生徒であったり、スタッフの方であったりには多様性があると思います。それは、良いスタッフ悪いスタッフ、そういうものではありませんし、上下というものでもありません。ややもすると、そういう見方をしてしまいがちかと思いますが、そうではなくて、もちろん生徒さんのニーズも大事なんですけど、スタッフさんのニーズであったり、そういった多様なニーズといったものを調整しながら、みんなのニーズを認め合いながら何か夜間中学校というものが出来上がればと、皆様方のお話をうかがって思いました。そういった意味でも宇都宮大学に今後イニシアティブをとっていただけると非常にありがたいと思います。私からのコメントは以上です。ありがとうございました。

### ○鄭安君

皆さん、こんにちは。宇都宮大学多文化公共圏センターの鄭安君です。よろしくお願ひします。この二日間、皆さんの話を聞いて、すごくドキドキワクワクしています。自分が少し聞いたことのある話、全く知らなかった話、刺激になった話、心が大きく動いた話。人間として、すごくここに居て良かった、生きていて良かったと思います。二日間、「実践の立場」と

か「研究の立場」とか、色んな方が色んな立場で話されました。色んな違う考えがあり、「みんな違ってみんないい」のです。このシンポジウムのように、異なる主張や話が交流できる場が増えれば、より良い考えが生まれて、より良い社会を作っていけるのではないかと思います。

4名の方の話の中からは、自主夜間でも公立夜間でも設置する必要があると非常に強く感じております。もちろん設置の仕方や継続の方法などの課題がすごく多いし、様々な学びのニーズがある中で、どのようにそのニーズを応えていくのかは、本当に簡単なことではないと思います。4名の方の話からは、夜間中学現場では、1対1の授業形態がすごく多いと感じました。実際、1対1の授業はどこまでできるのか、1対1でできない場合にはどのように授業を進んでいくのかなど、これからの課題ではないかと思います。

私は台湾出身で、博士後期課程の時から外国人介護労働者、外国人労働者の研究をしてきました。ここで話されていた「学び」や「夜間中学校」とかは今までの私の研究とはちょっと遠い世界だったのです。しかしながら、研究からは社会的弱者に関して強く感じていることがあります。どうしても弱者と言うと助けてもらわなければならないというイメージが強いのですが、フィールドワークで強く感じているのは、実はひとり一人の人間は弱者であり強者でもあること、そして一人の人間は常に強者と弱者という2つの立場で行き来していることです。人間は複雑にできているので、単純に定義できないのです。例えば社会的弱者と見なされている人たちであっても、常に選択しようとする意欲を持っているのです。その選択肢が少ないとか、選択肢がほんのわずかしかない中でも「生きよう」「生き延びよう」とより良い人生や結果を求めて、選択しようとするのです。

澤井先生の話聞いて強く感動したのは、「生き延びるための学び」という言葉です。私自身は外国人として日本で暮らしていく中「生き延びよう」とするのですが、よくよく考えると、日本の国籍を持っている人も同じです。皆さん必死に生きのびようとしているのです。澤井先生は、「いきものは本来自己中心なのだ」と話しましたが、生き延びようとするのも、自己中心なことであると思います。私は生きて、でも皆さんも生きてい中で、どうしても衝突が起こったりします。だけど私1人では生きていけないので、他の人とくっつかなければならない。「私だ、私だ」と言ってもしょうがない。内と外の矛盾をどう解決するかが問われる時に、そのポイントは「学び」だということだと思います。いわゆる「他者との和解」であり、「社会との和解」とでも言い換えられるのではないかと思います。「社会との和解」とは、台湾のフィールドワークで知り合ったジャーナリストから借りた言葉です。戦う必要があれば、和解する必要もある。それはまさしく澤井先生が仰っている矛盾を解決するための学びであると思います。

そして、先生が仰った「教育という言葉が明治期のエデュケーションの誤訳だ」にも痛感しました。幼児教育現場で働いた頃にはそのように感じた部分がありましたし、先日、私が非常勤でやっている大学の授業でも感じました。授業後に多くの質問をする活発な1年生に「発表をしませんか」と声を掛けたら、その学生は「トライしたいです」と発表をよく準備しました。発表前に学生と個別の練習の時間を設けたのですが、練習の後に学生は「ほっとしました。先生みたいに知識を持っている人の前で発表する事はすごく緊張です」と言ったのです。私はその言葉にズキッとしていました。知識があるかどうかに関係なく、相手に伝えることが一番大事であると思いました。「教育はお上のもの」ではないのです。

最後、今日の4名の先生の話聞いて、私は自主夜間中学を目指す学びとは何かという「共に生きる」ための「共に学ぶ」ことだと思います。ありがとうございました。



自主夜間中学を目指す学びは、「共に生きる」ための「共に学ぶ」ことだと語る鄭安君



## 学生発表

### ○服部花菜・高松美里・黒坂愛

#### 「夜間中学を知って、自主夜間中学を考える」

では、始めさせていただきます。田巻先生のゼミの8人で夜間中学について現在学んでいます。今回「夜間中学を知って、自主夜間中学を考える」というテーマで発表させていただきます。私たちが夜間中学について今まで何を学んできたのか、そして、もし宇都宮大学に自主夜間中学を作るならばというようなことを8人で考えてみました。最初に夜間中学に対する私たちのそれぞれの想いを自己紹介と共に述べさせていただきます。

国際学部3年の服部花菜です。私は栃木県出身です。夜間中学については田巻先生の授業で学ぶまでは知りませんでした。「こんばんは」を観て、私の祖父母くらいの人々が生き生きと学ぶ姿を見て良い意味で衝撃を受けました。資料などからも夜間中学が、義務教育を受けられなかった様々な人々にとって人生を変えるほど大切な場所にもなるということを知りました。そして栃木県にはまだ夜間中学がありません。田巻先生の授業で栃木県に夜間中学を作りたいというような話があった時に叶えられるならどんなに良いことだろうかと思いました。今回のイベントがその第一歩になることを信じています。よろしくをお願いします。

私は国際学部3年の高松美里です。私も田巻先生の授業を取るまで夜間中学の存在を知りませんでした。しかし、夜間中学の全国的な動向の調査やドキュメンタリー映画「こんばんは」の視聴を通して、学び直しを求める人が多くいること、またそのニーズが潜在的であることを知りました。私も服部さんと同じく栃木県出身で、身の周りに外国人が多いということを常日頃から感じていました。彼らの中には日本語の読み書きの能力が不十分な方が少なからずいると思います。日常生活に不便を感じている外国人や高齢者、不登校経験者など全ての学び直しを希望している方が気軽に通うことができる夜間中学を栃木にも作りたいと思っています。本日はよろしくをお願いします。

国際学部3年の黒坂愛です。私が初めて夜間中学のことを知ったのは、恥ずかしながら田巻先生の講義を受講してからです。外国にルーツを持つ方、不登校の方、老人の方など、これといった制限がなくすべての人に開かれている教育ということが印象的でした。現在では残念ながら夜間中学校がある県は少ないです。今回の会が栃木県に夜間中学校を作るなにかしらの手助けになったらと思っています。よろしくお願いたします。

### ○服部花菜

こちらが目次になります。まず、夜間中学について学んだこと、そしてそれを踏まえて、宇都宮大学生が宇都宮大学自主夜間中学について考えている「宇都宮大学に自主夜間中学を作る会」の紹介、この会のモットー、という順に発表させていただきます。

私たちは夜間中学についてほとんど知りませんでした。去年の後期の授業では、墨田区立文花中学校が夜間学級の一年を記録したドキュメンタリー「こんばんは」を鑑賞しました。夜間中学は年齢も国籍も様々な生徒がいて、彼らが楽しみながら学ぶ姿が印象的でした。また、夜間中学の存在の大切さにも気づけたと思います。今年の前期のゼミに入ってから全国の自主夜間中学の動向を調べています。インターネットの情報、また関係者の方とのメール、電話、オンラインでのやり取りを通して調べました。札幌遠友塾、福島駅前自主夜間中学、仙台自主夜間中学、岡山に公立夜間中学を作る会、そして現在夜間中学県立初となる徳島県立しらさぎ中学校、また、栃木県の夜間中学に関するニーズ調査の計6カ所の地域を調べました。それぞれの自主夜間中学の概要、また歴史を知り、その各地域に寄り添った夜間中学のあり方や想いを知ることができたと思います。後期のゼミに入ってから、今回のイベントの計画を練ると共に夜間中学に関するニーズ調査の資料を読んで実態的な学びを深めています。福島駅前自主夜間の記



学生発表、左から服部花菜、高松美里、黒坂愛

録番組「生徒が主役」も視聴しました。これらの学びで気づいた自主夜間中学のあり方を宇都宮大学の自主夜間中学でも取り入れてたいと考えています。

まず、「誰でも、いつでも学べる機会がある」、年齢や国籍、学びたい理由が異なる様々な人々を受け入れる場であると思います。次に、「自由で楽しい」、生徒が学びたいと思う内容を自由に学べる場であると思いました。次に、「先生と生徒が共に学べる」ということ、単に先生が教えるだけでなく年齢や国籍、多様な生徒に教わることもあり、相互に知らないことを知る機会であると思いました。「居場所になる」は夜間中学に通い、仲間や先生に会うので学ぶだけではなく彼らにとって大切な場所になると思ったからです。そして、これらを宇都宮大学に自主夜間中学を作る際に実現したいと思いました。

宇都宮大学に自主夜間中学を作る会の紹介をします。まず、「宇都宮大学に自主夜間中学を作る会」の運営体制を作る構想をしました。先ずスタッフですが、学生や教員などの宇都宮大学にいるボランティアスタッフを想定しています。宇都宮大学には教育学部もあるので、彼らの協力を得ることで実践的な学びもできると考えています。大学には留学生も多くいるので外国籍の方々の対応も可能だと考えられます。また、国際交流もできると考えています。他にも大学の教員や学生と夜間中学の生徒の交流はお互いに刺激し合えるものではないかと思っています。次に場所ですが、宇都宮大学の施設でコミュニティスペースのような場所がいいと思ったので、この2つの場所を考えています。1つは、ラーニングコモンズで、ここはホワイトボードなどの備品も揃っているため学びやすい空間だと思います。もう1つのUUプラザは、正門の近くにあるため通いやすく地域にもなじみやすい空間だと思っています。この2つのどちらかを考えています。

### ○高松美里

次に、学習内容についてです。学習内容は基本的に自由で、国語・算数・数学・英語・社会・理科・体育など様々な科目を学べるように対応していきたいです。また、宇都宮名物の餃子をみんなで作る餃子パーティや栃木の特産物の苺を使っていちごジャム作りなどイベントも息抜きにしたら楽しいと思っています。授業形式は一人ひとりに合わせたマンツーマン形式が望ましいと考えています。一斉授業や宇都宮大学の教員による夜間中学生のための特別授業もあると、様々な形の授業を体験できるので生徒は新鮮味を持って学校に通えるのではないかと思います。時間は週一回18時から20時半、一コマ50分で行うことを考えています。また、宇都宮大学には広いグラウンドや体育館があるので、参加希望者は土日に体育をして適度に体を動かすこともできます。夜間通うことが難しい方のために可能であれば昼の時間帯にも開講したいと考えています。教科書は定めず自由に生徒が自分で学習したい教材を持ち込んでも、スタッフが用意したものどちらでも使うことができるようにします。また、宇都宮大学附属図書館には小学校からの教科書が揃っているためその中からその日の気分で選ぶことができると思います。

行事は4月には入学式・花見をして秋には日光へ遠足に行く。11月には宇都宮大学の大学祭があるので、そこで宇都宮大学自主夜間中学として出店、出店を出したり学習発表の場として何かを展示したりするなど、なんらかの形で参加できたら多くの学部生や地域の人と交流できて楽しいと思います。また12月にはクリスマス会、3月には卒業式があります。授業時間割は、まず出席確認などはじめの会と、福島駅前自主夜間中学で行われていた校歌斉唱がとても良いなと思ったので宇都宮大学の自主夜間中学でも取り入れたいと思っています。生徒を主体に校歌を作って授業の前にみんなで歌う時間を設けたいと思っています。そして、50分の授業を二コマやり、その日の授業の振り返りシートを記入して、みんなで後片付けをして終了という形にしたいと思っています。

### ○黒坂愛

対象は特に制限を設けず学び直しを求めるすべての人を対象とします。同様に定員は設けない予定です。募集方法は多くの人に夜間中学を知ってもらいたいので、パワーポイントの通りに多くの場所に掲載する予定です。地元の飲食店や新聞会社である下野新聞さんにもご協力して頂けたらと考えています。先ほど発表した通り、勉強場所は宇都宮大学、教科書は持ち込みや図書館など、スタッフについてはボランティアなのでお金は基本的に掛からない予定です。ですので、学習者からお金は徴収しない予定です。修学旅行などの行事がある時にはお金を都度徴収し、学習自体はお金がかからないというスタンスで運営することを考えています。広告費など別途、お金が必要な場合はクラウドファンディングまたは大学からの



援助で集めようと考えています。

この宇都宮大学に自主夜間中学を作る会のモットーは「地域に開かれた学校」「楽しく自由な学び」「宇都宮大学だからこそその自主夜間中学」を提供することです。「地域に開かれた学校」というのは、地域のコミュニティの中の一つになることであり、自主夜間中学が、敷居が高いものではなく親しみやすいものになることを私たちは目指しています。「楽しく自由な学び」というのは、生徒が主役ということを理念とし、先生と生徒の垣根をなくし、先生生徒間はもちろん生徒同士でも学び合える場にするという意味です。

「宇都宮大学だからこそその自主夜間中学」は具体的に言うと次の通りです。まず一つ目は、宇都宮大学には教育学部・国際学部・農学部・工学部・地域デザイン科学部といった5学部があります。そのため様々な学生と交流ができ、また、専門的な学びをすることが可能です。二つ目は留学生が多くいることです。そのため外国籍の生徒の対応も可能であり、また国際交流もできます。国立大学が夜間中学校を開校することによって第三者の方々による夜間中学に対する見方も変わってくるのではないかと思います。また、参加するの方々にとっても「大学に通う」とは実質的に違うのですけれども、そういった雰囲気を味わえることに価値があるのではないかと思います。これらのことを宇都宮大学ならではの自主夜間中学の学びと私たちは考えました。ご清聴ありがとうございました。以上、発表終わります。

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 学習内容: 基本的に自由  
国語・算数・数学・英語・社会・理科・体育など  
餃子パーティ・いちごジャム作りなど
- 授業形式: マンツーマン  
一斉授業や大学教員による特別授業なども

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 時間: 週1回 18時~20時30分。任意で土日は体育可能なら、昼の部10時~12時30分も開講
- 教科書: 学習者・スタッフ・宇都宮大学教育学部が用意 図書館の教科書
- 行事: 4月...入学式・花見 秋頃...遠足、大学祭  
12月...クリスマス会 3月...卒業式

### 授業時間割の例

	はじめの会
	校歌斉唱
50分	勉強1
	休憩
50分	勉強2
	振り返り
	片付け

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 対象: 学び直しを求める人
- 人数: 定員は設けない
- 募集方法: 大学のHP・下野新聞・市役所のチラシ・PR動画  
図書館・地元飲食店・SNS・街づくりセンター

### 夜間中学を知って、自主夜間中学を考える 「宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会」の構想

天野風平 木村マリアナリサ 黒坂愛 高松美里  
外館奈々 服部花菜 久富アリネリサ 丸山香倫

### 目次

- 夜間中学について学んだこと
- 学生が考える、宇都宮大学の自主夜間中学
- 「宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会」の紹介
- 「宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会」のモットー

### 私達が夜間中学について学んだこと

- 2019年10月: 「こんばんは」鑑賞
- 2020年4月: 全国夜間中学について  
札幌遠友塾・福島駅前自主夜間中学・仙台自主夜間中学  
岡山に公立夜間中学をつくる会・しらすぎ中学校・
- 2020年10月: ニーズ調査から自主夜間中学を分析  
「生徒が主役」鑑賞

- 誰でも、いつでも学べる機会

- 自由で楽しい  
学生が考える、宇都宮大学の自主夜間中学
- 先生と生徒が共に学べる
- 居場所になる

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 金額: 基本的に無料
- 資金: クラウドファンディング  
宇都宮大学の援助資金

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 モットー

地域に開かれた学校  
楽しく自由な学び  
宇都宮大学だからこそその自主夜間中学

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 運営体制: 「宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会」
- スタッフ: ボランティアで宇都宮大学の教員や学生

### 宇都宮大学に自主夜間中学をつくる会 紹介

- 場所: 宇都宮大学  
ラーニングcommons2階 UUプラザ



### 宇都宮大学だからこそその自主夜間中学

- 5つの学部の学生と交流・専門的な学びができる  
教育学部・国際学部・農学部・工学部・地域デザイン科学部
- 留学生も多くいるため、多国籍の生徒にも対応できる  
校内で国際交流も可能

ご清聴ありがとうございました。



## 「学生が考える自主夜間中学 —「えんぴつの会」を事例として—

### ○李梅

宇都宮大学地域創生科学研究科修士2年の李梅と申します。田巻先生の研究室に所属しており、田巻先生の指導で自主夜間中学の現代的意義について修士論文を執筆しているところです。本日は「学生が考える自主夜間中学—「えんぴつの会」を事例として—」について発表させていただきたいと思います。

実は修士1年時私の研究テーマは全く違う内容だったんです。2019年の12月、ちょうど去年の頃、長年夜間中学に勤めている見城慶和先生に宇都宮大学にお越し頂いて夜間中学についての講演会を開きました。当時の私にとって夜間中学という単語を初めて聞きまして「社会的弱者のためみんなが一生懸命頑張っているんだ」と感心しました。それからの個別交流会の時も見城先生から中国帰国者のことを聞いて、自分が最初日本に来た時のことや栃木県の高校進学ガイダンスで中国にルーツを持つ子どもの支援をするボランティアをやったことを思い出して非常に共感を感じました。だから、修士2年生になった際に研究テーマは夜間中学に変更し、さらに今年の10月から東京都墨田区の「えんぴつの会」という自主夜間中学のボランティアとして活動を始めました。

「えんぴつの会」という自主夜間中学は、1990年に活動を開始した「多聞寺学習会」とその他の教室が合流し、2003年に名称「えんぴつの会」として発足しました。基本活動は毎週月曜日と木曜日、午後1時半から3時半までで、2020年12月現在登録学習者数は約20名となっています。スタッフは約15名です。共に国語・数学・日本語などを学んでいます。生徒は日本人が多いですが、韓国・中国・台湾など、様々なルーツを持っている人も通っています。日本語習熟と教科など配慮しながらそれぞれの希望や目的に応じて数人に分けたテーブルを囲む形で学習しています。また、年間行事も実施していて、「自由発表会」、「特別授業」、「ハイキング」などがあります。

昨日話があったように、関東と関西の在籍年数の制限がかなり違って、だから公立夜間中学を卒業した後も学びを続けたい生徒が非常に多いです。その他、住居地域に公立夜間中学がない、公立夜間中学への入学条件が満たされない、週5日の通学は無理だけど1週間に数日ならば勉強を続けたい、日本語を学びたいなど様々な理由でみんな「えんぴつの会」に通っています。

しかし最近、高齢者が多いためか、コロナ禍の影響もありますし、年末年始という原因などがあるかもしれませんが、毎週通う人がだんだん少なくなりました。ほぼ欠席してない生徒は5人6人くらいです。日本語が全然わからないまま韓国から来て日本語の練習のため何十年も日記を書いている女性、中学校形式卒業で2015年前に公立夜間中学に入らなくて区役所の紹介で「えんぴつの会」に入会した戦争経験者、公立夜間中学を卒業してから定時制高校に進学して今「えんぴつの会」で数学を勉強している台湾からの高齢女性、さらに先週手術したばかりの高齢女性などです。

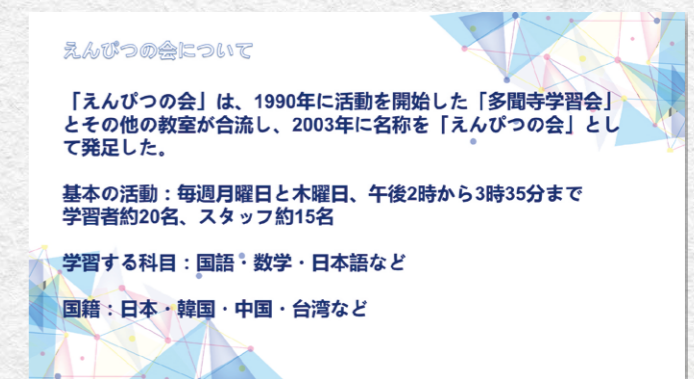
私が支援しているのは中国帰国者2世の女性で、20年前お母さんと娘さんと一緒に来日しました。この女性やお母さんと娘さんは公立夜間中学卒業生で、卒業後も日本語を勉強し続けるため「えんぴつの会」に入会しました。3年前お母さんの看病で来なくなりましたが最近お母さんが老人ホームに入所したためまた「えんぴつの会」に通い始めました。3年ぶりに日本語を勉強してこの前もっと日本語が話せるようになったと他の生徒から言われました。本当に最初から学び直していますから、使っている教材「大地初級1・2メインテキスト」の各課に出てくる文法を踏まえて関本先生が作成した日常会話の練習プリントです。今は会話練習を中心に勉強しています。私が支援している女性は、旦那さんの看病も含めて毎日朝4時半に起きてさらに家事に追われているけど家で毎日復習しています。通学も自転車で片道40分かかると、開始時間よりいつも1時間前に到着して勉強しています。68歳の方ですがとても向学心に溢れているのがわかります。「中国農村部出身だからあまり学校に行ったこともありません。今の勉強時間をとても大切にしています」と。この女性にとって自主夜間中学は「安心して勉強できる場所」、「異文化理解の場所」、「問題解決の場所」、「必要な情報を入手できる場所」、「社会参加をサポートする場所」となっています。

もう1つ例があって、本来見城先生が今回のイベントに参加できれば発表する予定であった内容をこれから紹介させて頂きます。新型コロナウイルス感染拡大が深刻化する中で全国の学校が休校となり、卒業式も流れ、新学期の授業再開も5月中旬までずれ込むという異常事態に追い込まれました。

そんな中でも4月から始まる夜間中学生活に意欲を燃やしていたハナさんが、自ら命を断つという痛ましい事件が新聞で大きく報じられました。彼女は幼い頃から母親に暴力を振るわれ、小学3年生に不登校になって、中学生活は5回ほど登校しただけで暴力団から売春を強いられ覚醒剤から抜け出せないで逮捕されたのが4年前のことでした。取り調べに当たった刑事たちのすすめで薬物経験者らの集いに参加する中、介護福祉という夢が芽生えました。働きながら小学校の算数から学び始めた彼女のことを新聞の記事で知ったのが都内の夜間中学で学習支援をしているS先生でした。「夜間中学に通って見ないか」という先生のすすめで入学前の自習勉強にも適うようになりました。ところが、コロナウィルスのため薬物依存克服の集いもなくなって、楽しみにしている自習も中止して、新入生代表の言葉を読み上げるはずだった入学式も延期になってしまいました。再開の見通せない授業の代わりにS先生が送る励ましやアドバイスも答えられなくなり、生活保護の受給や薬物依存克服のリハビリ施設への入所も拒否して、自らの人生に終止符を打ってしまいました。

多くの事例を挙げてきましたが、自分自身学ぶ中で凄く夜間中学の意義を感じました。実は、自主夜間中学の意義について、関本先生にもインタビューしました。関本先生は主に2つの意味があると述べています。一つ目は、公立夜間中学がない地域で小学校・中学校を卒業していない人々の学びの場を提供して、週一回・週二回の勉強によって、学びが広がっている役割が担っているということ。二つ目は、自主夜間中学を作るという実績を教育委員会あるいは議員に、こういう地域に公立夜間中学を作る必要があるということだと言います。さらに川口市の例も挙げて、県内に公立夜間中学の設立を目指す運動を始めてから30年、その間ボランティアによる自主夜間中学を運営しながら30年以上経てようやく2019年の4月に公立夜間中学を開校しました。見城先生や関本先生は夜間中学を「社会のばんそうこう」と表現して、「学び直し」の場である」と述べています。スピーチ大会では夜間中学在学や卒業生たちが「学ぶことで自分の言葉を獲得し、自分の存在が肯定できて自信をもって生きられるようになった」と、学ぶ意味と喜びを語りました。


私自身にとっても、この前東京都葛飾区双葉中学校を見学した時、日本語を学んでいる外国人の子どもたちの姿を見て、とても感動しました。今後夜間中学で新渡日外国人が増加することが想定されています。宣伝活動や支援活動など多様なニーズに応えるため色々頑張りたいことがあります。私は来日してまだ3年ちょっとなんですけれども研究者を目指す大学院生として、こういう日本語が上手く話せず、義務教育も終えていない人たちのため、日本社会に溶け込むことができるよう、人生の道を開くことを少しでも助けられたらいいなと考えております。最後に、宇都宮大学で自主夜間中学、さらに公立夜間中学を設立して欲しくて私たち大学院生も卒業しても力になりたいと思っています。以上となります。ご静聴ありがとうございます。





えんびつの会について

日本語の習熟度、教科などに配慮しながら、それぞれの希望や目的に応じて数人に分かれてテーブルを囲む形で学習している。



年間行事：  
「自由発表会」、「特別授業」、  
「ハイキング」

えんびつの会に通う理由：

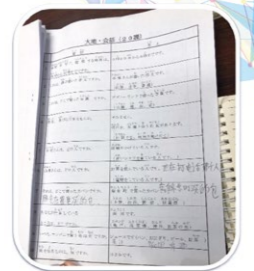
- 公立夜間中学を卒業した後も学びを継続したい
- 居住地域に公立夜間中学がない
- 公立夜間中学への入学条件が満たされない
- 週5日の通学は無理だが、1週間に数日ならば学習を続けたい
- 日本語を学びたい

ご清聴ありがとうございました  
thank you for your attention



私が支援している女性

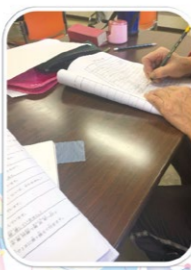
中国帰国者2世の女性、公立夜間中学の卒業生。卒業後日本語を勉強し続けるためえんびつの会を入会。三年前お母さんの看病で来なくなり、最近また通い始めた。



教材：「大地初級1・2メインテキスト」の各課に出てくる文法を踏まえて関本先生が作成した「日常会話」の練習プリント

私が支援している女性

家でも復習している。通学は自転車です。片道40分かかると、開始時間より一時間前に到着して勉強している。68歳だが、とても向学心に溢れている。勉強の時間をとても大切に



「安心して勉強できる居場所」  
「異文化理解の場所」  
「問題解決の場所」  
「必要な情報を入手できる場所」  
「社会参加をサポートする場所」

見城先生のお話

四月から始まる夜間中学校生活に意欲を燃やしていた八木さん(仮名・25歳)が自ら命を絶つという痛ましい事件が新聞に大きく報じられ、働きながら小学校の算数から学び始めた彼女のことが新聞の記事で知ったのが、都内の夜間中学校で学習支援員をしているs先生(女性・71歳)でした。「夜間中学校に通ってみたいか」という先生のすすめて入学前の自習勉強にも適うようになりました

関本先生のお話

薬物依存克服の集いもなくなり、楽しみに通っていた自習も中止、新入生代表の言葉を読み上げるはずだった入学式も延期になった。再開の見通せない授業の代わりにs先生が送る励ましやアドバイスにも応えられなくなり、生活保護の受給や薬物依存克服のリハビリ施設への入所も拒否して、自らの人生に終止符を打ってしまった。

関本先生のお話

**01** 公立夜間中学がない地域で小・中学校卒業してない人々の学びの場を提供し、週一回・週二回の勉強によって、学びが広がっている役割を担っている。

**02** 自主夜間中学を作るといふ実績を教育委員会あるいは議員に、こういう地域に公立夜間中学を作る必要があることを知らせる。

まとめ

見城先生と関本先生：  
「社会のほんそうこう」「学び直し現場である」

在学生や卒業生たち：  
「学ぶことで自分の言葉を獲得し、自分の存在が肯定でき、自信をもって生きられるようになった。」

## 全体講評

### 〇工藤慶一

2日間とても中身のある議論がなされたと思っています。この2日間感じたこと、それから祈っていることを2つ述べたいと思います。

1つは、特に今日自主夜間中学の関係の方の発表を聞くにつれ、札幌遠友塾が全国夜間中学校研究大会に参加するようになって以来の長い期間を思い起こしてみると、自主夜間中学は強くなったなと感じました。そしていまようやく政府の基本指針において、自主夜間中学が果たしている義務教育における役割が、地方公共団体においても重要視されなければならないと出ていることもあり、自主夜間中学が持っている自由性を十分に発揮して、これからさらに強くなっていくと思います。



「学ぶとは人権の核だ」と「地域で学校をつくる」との言葉が印象的だったと語る工藤慶一

様々なことはあるでしょうが、これに向かって自主夜間中学もこれから力をつけて行きたいと考えます。実はその根っここの部分に、今日澤井さんのお話になった、「学ぶということはどういうことなのか」ということへの再構成を、やはり一度お腹の中に入れる必要があると思いました。先ほどのお話を聞いて感じたのですが、一度澤井さんに北海道に来ていただいて、自主夜間中学のスタッフに講演していただいて、みんなで考えてみよう。そして、それをわたしたちのお腹の中に入れてみようというアイデアが浮かびました。

「学ぶとは人権だ、人権の核だ」ということ、これが非常に心に残っております。

もう1つは、田巻先生がおっしゃっていた「地域で学校をつくる」という言葉です。実はこの「地域で学校をつくる」というのは、今年6月から7月にかけて行われた札幌市の公立夜間中学のあり方検討会議で、8名の検討委員が参加して議論を戦わせたことなのです。その結果が札幌市教育委員会のホームページに全部掲載されています。ここで非常に大きな結論が得られました。その結論が実はこの「地域で学校をつくる」ということに繋がったんです。それで北海道に夜間中学をつくる会の内部資料として私たちが確認をした文書がありますので、その概略に沿って説明いたします。

4回にわたる検討委員会は非常に内容が深く有意義なものでした。2020年1月から2月にかけて、市教委が実施したアンケート調査は、入学が予定されている人への聞き取り、ニーズが高い集団、すなわち遠友塾、札幌市若者支援総合センター、それから無作為に選んだ外国籍の人3,000名に焦点を絞ることで、ニーズについて精度の高い分析がなされ、市教委はその分析をもとに前向きに課題を整理し、検討委員会に提起したことは高く評価できます。



それに基づいて、札幌市立夜間中学設置に向けた実質的な議論がなされました。アライバイ会議ではなく、本気の会議であったと言えます。最も大切なこととしては、自主夜間中学の立場から、「ともに生き、ともに学ぶ」という精神は、公立夜間中学にも受け継がなければならないこと、スタッフは学習者の生き様から学び、生徒の歩みに寄り添うという姿勢が求められているとの提起に対して、検討委員会の共通理解となったと理解しています。また、「市民皆でつくる学校」という考え方が示されたことは特筆に値するとも。「学校をつくってしまえばそれで終わり」ではなく、学校の枠の中では解決困難な課題に対して、自主夜間中学、若者支援総合センター、主に外国人の支援に携わる札幌国際プラザなどとの、双方向での交流等を通じて、市民総動員で取り組んでいく姿勢が大切であることが確認されました。ここが、「地域で学校をつくる」ということそのものだと思います。

なお、私たちが今まで提起してきた課題については、市教委から以下のように方向性が確認並びに提起されています。「在籍可能な年限を3年以上に設定すること」、「複数回の入学時期の設定や随時入学の検討」「少数指導体制の充実、個別授業や複数体制での授業を含む」。車イスの生徒の受け入れを前提として、また、札幌市以外の自治体からの受け入れを前提として議論が進められました。そして検討委員会の議論を受けて、札幌市教委が基本計画を12月末までにまとめ、来年の3月に正式発表ということになります。

なお、大きな課題である教員数(養護教員を含む)、あるいは就学援助等については財政部局との関わりがあるので、市教委の枠を超えた運動の広がりが求められると、この段階ではそのように書いてあるのですが、12月3日、単独校としていくという市教委の方針が確認されました。新たなスタートになると思います。

一番困るのは、公立夜間中学の教員はだれがなるのか、という問題です。再来年4月開校で人事異動が3月なんですよね。そんなこと、ポンとなれるわけがないんです。じゃあどうするのかということで、いろいろな問題を提起していましたが、昨日もお知らせした通り、小学校、中学校、高校の中から、教員のプロジェクトチームがすでに結成され、札幌市教委の中で指導主事が、おそらくこの方かと思われる校長になるという方が、昨年来、我々と一緒に議論を深めておりますので、その方を中心に、まず札幌遠友塾に見学に来て、様々な相談をしていきたいということでした。実は12月16日を予定していたんです。コロナの問題でいったん中止ということになっていますが、まずここから始めたい。ここから自主夜間中学のスタッフと、こういうプロジェクトチームとのやり取りから始めていきたいと考えております。

なお、とても大切な6、7月に行われた検討委員会の議事録については、ぜひ、札幌市教委のホームページに全文掲載されています。その中で私も委員の一人として、思う存分自主夜間中学30年の経験をその提案の中に叩き込んでおりますので、ご一読いただければと思います。

来年もこのような集まりが開かれるという計画についてですが、非常に楽しみにしております。

この大学の自主夜間中学設立にあたって、働きかけをするというチラシをどこどこに掲示するという話がありましたが、その中でぜひ加えていただきたいと思っているのですが、必ずハローワークには持って行っていただきたい。

なぜならハローワークに行くと、そこに行く方が様々な文書を作成しなくてはいけないので、より読み書きが不自由な方が非常に目立つということで、ハローワークの職員が遠友塾を紹介してくれるというケースが多発しております。ですから必ず持って行ってください。

こういう例もあります。男性のDVIによって、逃れた人を保護する駆け込みシェルターというのがありますね、あそこに逃げ込んだ女性が自立するためにアパートを借りようとしたときに、そこで初めて読み書きできないということが分かったということで、シェルターのスタッフが遠友塾に連れてきてくれました。このようにですね、自主夜間中学のスタッフは、ありとあらゆる人間関係を結んで、即対応するというような関係でないと困るものですから、ぜひその場を1つでもいいから広げて行っていただきたい。

さらに、病院の先生、福祉施設の担当者の方が、遠友塾に入りたいという方を連れてきてくれるケースが非常に多いです。ですから、そういうことも含めて、今後期待しております。ありがとうございました。

## ○駒井洋

2日間、熱気にあふれる話がずっと続きました。これまでも私はいろいろな学会やミーティング等に出席してきました

が、これだけの熱い感情の高さが持続している会合というのは、今回初めて経験したような感じです。本当に驚きました。

それで総括としましては、この自主夜間中学の正式の名称はどうなるのかということが気になりました。私は「宇都宮大学国際学部附属自主夜間中学」という名前が良いのではないかという気がしております。先ほど教育学部と一緒にやりたいという話をしておられた方がいました。ですが、いきなり話を進めようとしても、向こう側で自主夜間中学に興味を持っている教員がおられないということが、ここに出席されていないということからも分かります。ですから、教育学部を巻き込むということは難しいのではないのでしょうか。一般的な偏見にしたがっていうと、「教育学」というものは戦前の日本の国家権力に奉仕してきた長い伝統を持っています。この夜間中学みたいな発想を体質的に取りにくいという構造もあるのではないかとさえ思います。

「宇都宮大学国際学部附属自主夜間中学」という正式名称にしたら何が起るのかということ、その自主夜間中学のイメージが、大学のイメージと合体して、すごく上昇することになるのではないかと思います。先程「こんなクズみたいな変な学校に入って」というようなお話を伺いましたけれど、そうじゃなくて、「大学附属夜間中学」であれば、まさにその正反対のことが起きると思います。

「地域社会に開く」ということについては、城之内さんの「岡山に夜間中学をつくる会」の活動の仕方に私はとても興味をひかれました。まず、「資金援助」を岡山市の財界、それから社長、その他もろもろ考えられる限りのところに一生懸命頑張って訴えかけているということです。地域から資金を提供してもらうという意味での地域との連携が、「地域に開く」ということにつながります。

それからもう一つは、ボランティアのことです。2日間お話を聞いていると退職した学校の先生にとっても熱心な先生が多いようです。だから、国際学部の学生ボランティアだけではなくて、宇都宮市内広くボランティアを募ったならば、地域社会に根付くことができるのではないのでしょうか。もちろん自主夜間中学に集まってくる学生が地域社会に開いてくれるのは当然ともいえるのですが。

昨日澤井さんとお酒の席で同席させていただいて、先程の澤井さんのお話のその先の話をしました。それは何かというと、大田堯という大者が言ったのは、「育てる、はぐくむ教育」というのは、明治維新体制の上から目線だと。それに対して大田堯は「共に育つ」ということを教育にしたいと言っていたと澤井さんから聞きました。なるほど、「教育」を「共育」というように、漢字を一文字入れ替えるだけで変わります。

それで、自主夜間中学も含めて夜間中学の意義というのは、社会的弱者のエンパワーメントですが、対象が社会的弱者であることは間違いのない。そういう人たちの存在を、宇都宮大学の学生や教員にしっかり刷り込むということが、この自主夜間中学の1つの効果になるのではないかと思います。宇都宮大学は国立大学です。周辺の優秀高校から選抜されて、スーッとエスカレーターに乗ったままこの宇都宮大学に入学してくる、そういうエリートたちの集まりが、宇都宮大学の学生のほぼ全員であると私は理解しております。そういう中で、社会的な弱者という者が存在しているということを身に染みて感じるというチャンスが、学生たちにも教員たちにも開けて、宇都宮大学の体質が社会的弱者と共感するという方向を強めるという可能性が1つあると思っています。

それから、昨日私が話した存在意義の二番目に、真の教育実践、教育実践の真正性ということを自主夜間中学のあり方として申し上げました。皆様のご発表もその通りで、「ああ、勉強したかった、字を覚えたかった、やっとこうやって字を覚えることができた、それに対してボランティアが一生懸命教えてこうやって字を覚えてくれた」こういった「真の教育実践」を宇都宮大学の学生と教員が、夜間中学を運営するという体験から感じ取るものがあるのではないのでしょうか。そのような新しい真正性のある教育実践ができる良いチャンスになるのではないかと思います。



夜間中学を通して、宇都宮大学の教員と学生が社会的弱者と共感すると語る駒井洋



第三点は、存在意義の三番目の「自己実現」ということになると思います。夜間中学に入った人たちが、自己の持っている可能性を思いきり開いて自己実現をできる、そういうルートを開いていくのです。しかもその自己実現をできる場には何かあるかといえば、同じ夜間中学で共に学ぶ「友」がいます。夜間中学を運営するところから、こういう「友」と対話して人生における自己実現への積極性というものを、学生も教員も学び取ったらよいと思います。そのためには何をするかというと、「国際学部附属」ということになった暁には、学生は自主夜間中学に、ボランティアとして教えるに行くことを国際学部の単位としたらよいと思います。単位につられて学生は動きますから。

私の話は以上になりますが、「宇都宮大学国際学部附属自主夜間中学」という名称を再度提案します。それによって、宇都宮大学ばかりではなく、夜間中学と自主夜間中学全体の日本における地位が高まる可能性が開けるのではないのでしょうか。それから、宇都宮だけでなく栃木県全体でもぜひ考えてほしいのは、お金をいかに集めるか、ボランティアをいかに集めるか、ということです。これが「地域に開く」ことだと私は理解しました。

最後に、「社会的弱者に共感する」、「真の教育実践を行う」、「自己実現を目指す人間たちを生み出す」という形で、プラスのフィードバックが、附属自主夜間中学から宇都宮大学に向かうということを期待しております。以上、どうもありがとうございました。

## 〇丁貴連

皆さま、この度は「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える」シンポジウムにご出席していただきまして誠にありがとうございます。対面とオンラインを同時併用した開催となりましたが、おかげさまで2日間の全日程を無事終えることができました。厚く御礼申し上げます。

本シンポジウムは、栃木県内に公立並びに自主夜間中学を導入するにあたって、その社会的意義と課題について考えるために企画されたものです。それ故に、昨日から「福島駅前自主夜間中学の10年」を題材にしたドキュメンタリー映画の上映をはじめ札幌市や尼崎市などで夜間中学の開設と運営に携わってきた関係者によるこれまでの歩みの紹介、公立夜間中学校で教科教育に携わる教員らによる授業紹介、自主夜間中学校が目指す学びをめぐる現状と課題、そして宇都宮大学の学生たちが取り組んでいる地域の特性に応じた夜間中学の在り方に関する研究発表など、実に様々な視点から夜間中学の必要性とその意義について検証が行われました。

ご出席の皆様、とりわけ栃木県の皆様にとっては夜間中学の社会的意義についての理解が深まったのではないかと思います。「胸が熱くなるシンポジウム」だったと駒井先生がおっしゃっていましたが、私も全く同じ気持ちでした。昨日はZOOMで、今日は会場で、この2日間、何度も涙を流しました。実は、この2日間、夜間中学の社会的意義に関する様々な発表を聞きながら、東京大学名誉教授で、政治学者でいらっしゃる姜尚中さんの母親の存在を思い出したからです。

ご承知の通り、姜尚中さんは熊本出身の在日韓国朝鮮人2世です。両親は戦前朝鮮半島から日本に渡り、苦労に苦労を重ねながら、厳しい戦後を生き抜いてきたのですが、とりわけ日本語の読み書きができない母親はつらい思いをしていたそうです。私は、この話をNHKの深夜放送(2011年頃)で聞きましたが、当時、姜さんは自身の母親だけではなく、在日韓国朝鮮人女性の多くが日本語の読み書きができなかったこと、子育てを終えた中高年の女性たちが娘や息子たちに勧められて夜間中学に通うようになったこと、そして文字が書けるようになった母親たちが、その喜びを伝えたくて離れて暮らす子供たちに手紙を書いていたことを語ってくださったのです。深夜放送を聞くまで、私は夜間中学の存在をまったく知らず、しかもその大半が在日韓国朝鮮人女性1世だったということに驚くと同時に、様々な事情で教育を受けられず、読み書きのできないまま高齢化を迎えた彼女たちの存在に気付かなかったことを恥じました。

ところが、今回、田巻教授から宇都宮大学に夜間中学を設立したいという話を聞いて、改めて夜間中学を調べてみたところ、在日朝鮮人女性が多く在籍していた夜間中学もすっかり様変わりし、いまやその主役は出稼ぎやビジネス、国際結婚、留学などで来日した新渡日の外国人へと移り変わっていました。「第64回全国夜間中学校研究大会・大会資料」(2018年9月)によれば、2018年現在夜間中学に通う生徒の出身国籍・地域は37ヶ国へと多国籍化が進んでおり、今後さらに増えていくと思いますが、1つ気になったことがあります。それは、貧困など様々な事情で義務教育を受けられなかったり、あるいは不登校などで十分な学習ができなかった70、80代の高齢者から10代の若者に至るまで決して少なく

ない数の日本人が夜間中学に通っていたことでした。その実態を、昨日の福島駅前自主夜間中学が制作した「生徒が主役」のドキュメンタリー映画から詳しく知ることができたのは、何よりも大きな収穫です。

実は、「生徒が主役」を見ながら、第71回カンヌ国際映画祭で最高賞を受賞した是枝裕和監督の『万引き家族』(2018)が頭から離れませんでした。この映画は、「経済的にかなり追い込まれた状況で、万引きや年金を不正に受給することでかろうじて生活を成り立たせている家族」の物語です。日本をはじめとする世界中から高く評価されましたが、SNS上には「文化庁の補助金を受け取っていながら、日本の恥部を描く反日映画を作った」、「日本人は万引きで生計を立てたりしない」、「変なイメージを外国に植え付けるな」、「カンヌ受賞は世界に恥をさらすものだ」という批判の声も多数投稿されました。しかし、映画で取り上げられた万引きや年金不正、児童虐待などはフィクションではなく、実際に日本社会で起きている現実そのものなのです。

私は日本に来て35年になります。留学先の筑波大学から1990年代後半に宇都宮大学に赴任した頃、メディアでは「十分に食べられない子どもがいる」と報道されていたのですが、そのような子がどこに暮らしているのか、貧困家庭の子供の存在が全く見えてこない現実に違和感を覚えていました。きっと是枝監督も同じものを感じていたでしょう。だからこそ彼は映画を通じて、社会から見えない人々の存在を可視化して、日本社会に警鐘を鳴らしたと思いますが、夜間中学に通っている生徒たちこそ長い間日本社会から見えなくなっていた存在なのではないかと、私は強く思います。

皆様もご存じの通り、田巻教授はホームレス研究と外国人児童生徒教育とその支援に関する研究を長年行ってきましたが、実はホームレスも外国人児童生徒も日本社会から見えなくなっていた存在なのです。これまでの田巻教授の研究成果と教育哲学を踏まえれば、栃木県内にも遠くない日に夜間中学が設立されるだろうと期待しております。